

〔資料〕

Uターン者調査と地域社会

山 本 興 治

はじめに

(1) 総合研究開発機構（NIRA）が、毎年、大括りのテーマを定めて地方の研究機関に委託する助成研究があり、今年のテーマは「人生80時代におけるライフスタイルと地域社会」であった。私は、「下関21世紀協会」のそのプロジェクトチームに加わるなかで、「Uターン者が構想する地域社会」というテーマで助成申請し、認可された。

その申請書には、最近の大プロジェクト開発・イベント志向の地域づくりを「経済偏重・若者偏重」と懐疑しながら、地方の中規模都市にとってもっと地道な地域社会づくりの視点がありうること、そして、そのための基礎資料調査を、他地域に居住・就業経験をもち、一定の期間を経て故郷へ回帰したがゆえに、自分のライフスタイルとの関わりで地域社会づくりについて、より「複眼的思考」をもっているはずのUターン者意識調査（つまり、ここでいうUターン者とは、いわゆる「新卒Uターン者」ではなく「中途Uターン者」である。）として果たしたい旨、記されている。

(2) 当初私は、Uターン者の帰郷後の就業形態につき、雇用就労から自営まで、また年齢層では、青年から壮年を経て、場合によっては職業から引退の老年まで幅広く想定していた。しかし、こうした雑多で広範なUターン者を一括した統計類はなく、大量の意識調査まで接近しえないこと

が間もなく判明した。そこで、最近熱心にUターン事業を展開している山口県庁・職業安定課の協力をえて、その統計資料から調査対象者を設定することにした。したがってこの性格上、ここでの調査対象者は、職業的に雇用労働者層に限られており、後にもるように、年齢的には大きく若者に振れている。

とはいえこの調査対象の振れは、不利だけをもたらしたのではない。県庁の協力のお蔭で、当初あまり期待していなかった「Uターン希望者意識調査」が、容易に可能になったばかりでなく、予定にもなかった求人側「企業調査」も可能になった。そして予定の既「Uターン者調査」を含めて、3つの意識調査のすりあわせによって、Uターン前と後の就労や街づくりに関わっての意識のズレのみならず、求人側と求職側のマッチ具合も分析可能となった。

(3) 3つの異なるアンケート票は93年9月に発送・回収された。すなわち、①「既Uターン者調査」(以下、Uターン者調査)という)として、89年4月以来の県Uターン事業によってUターンを果たした583名(93年8月末)に郵送され、220名回収(回答率37.7%)。

②「Uターン希望者調査」として、93年8月末現在の有効登録者571名に郵送され、170名回収(回答率29.8%)。

③「企業調査」として県内1274社に郵送され、861社回収(回答率67.6%)。

これらを総合したNIRA向け調査報告書は、近々作成される。それはかなり圧縮されたものになる予定だから、ここでは〔資料〕として、①の「Uターン者調査」結果のみを、表題のもとに発表したい。(なお、表は各節末に一括して掲げた。また「Uターン者用アンケート票」と、その作成にあたって参考とした文献は、巻末資料を参照されたい。)

第1節 調査対象者および回答者のプロフィール

山口県のUターン促進事業によって、平成元年以来、関係機関を通じて

Ｕターンを果たした者で、県・職業安定課が把握している数字583名（93年8月末現在）に対して郵送アンケート調査を行い、有効回答は220名であった。（回答率37.7％）。職業安定課が事前に把握し、アンケート票を送付した調査対象者のプロフィール、および本調査を通じて明らかとなった回答者のそれは以下のとおり。

1-1 年令と性別（続柄）

対象者調べでは、性別で男が88.4％、年齢層では20歳代後半を中心に20～34歳で78％をしめる。40歳以上の中年は1割に満たない（ただし表1は、93年10月20日現在の数字）。

これと比較して、回答者調べでは、20歳代前半の回答がやや少ない他はほぼ対象者に準じている。また続柄では、長男が63.6％と圧倒的比重をしめることが本調査で明らかとなった。（表2参照）

つまり、Ｕターン者のコアは30歳前後の長男にある。

1-2 現在の世帯状況

独身と既婚ではほぼ折半される。女の事例は少ないが、独身が圧倒的で、帰省後親と（おそらく実家で）同居している。

男の場合、既婚にややバイアスが掛かっているが、独身者が親と同居するのに対して（同居率60％）、既婚者は、むしろ親とは独立して家庭を営んでいる点に注目したい。既婚者男の同居率は、25％程度にすぎないのである。本人と親との年齢関係から推察して、まだ親は就労期にあり、本人は新婚後間もなく子供も小さいであろう。帰省後、ひとまず別の世帯を持つということであろうか。（表3参照）

1-3 学歴

事前の調査対象者調べでは、大卒46.1％、中・高卒40.3％、残余がその中間であった。性別で女に中・高卒の比重が高く、その分男は高学歴に傾いている。（表4参照）

これと比較して、本回答者調べでは高卒がやや低くその分、専門・各種学校等卒の回答が高くなっている。年齢には高卒は20歳代、大卒は30歳

代前半にコアがある。(表5参照)

1-4 Uターン直前勤務地

回答者調べで、東京を筆頭に、神奈川・千葉・埼玉を含めた首都圏が38.2%、大阪・兵庫の関西圏で25.1%、愛知4.7%とやや狭義の三大都市圏からの帰省が68.0%をしめる。これも事前の対象者調べ「Uターン直前住所」とほぼ符合している。しかし、広島や福岡等他県からの帰省組もあり、この数字も軽視できない。(表6参照)

1-5 Uターン後の現住所

回答者調べで、県央・周南・県西と都市部を中心に適度にばらついている。事前の対象者調べに比し、防府で回答率が高く、下関市でやや低かった他は目立った差異はない。(表7参照)

表1 調査対象者の年齢と性別

年齢	男	女	件数
～19歳	1	0	1
20～24歳	81	37	118
25～29歳	169	24	193
30～34歳	142	5	147
35～39歳	70	1	71
40～44歳	43	0	43
45歳～	13	1	14
合計	519	68	587

表2 回答者の年齢と性別

	男 (長男)	男 (長男以外)	女 (長女)	女 (長女以外)	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0	0
20～24歳	13	7	4	4	0	28
25～29歳	45	17	9	2	1	74
30～34歳	53	11	1	1	0	66
35～39歳	18	12	1	0	0	31
40～44歳	9	8	0	0	0	17
45歳～	2	2	0	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0	0
合計	140	57	15	7	1	220

表3 現在の世帯状況(性・続柄別)

	男 (長男)	男 (長男以外)	女 (長女)	女 (長女以外)	無回答	合計
独身(単身)	26	9	2	1	1	39
独身(親などと同居)	37	15	10	6	0	68
既婚(配偶者及び子供)	47	28	2	0	0	77
既婚(配偶者, 子供, 自分の親)	18	1	0	0	0	19
既婚(配偶者, 子供, 配偶者の親)	4	2	1	0	0	7
その他	7	2	0	0	0	9
無回答	1	0	0	0	0	1
合計	140	57	15	7	1	220

表5 年令別学歴構成

	中学卒	高校卒	高専卒	専門・各種 学校卒	短大卒	大学卒	その他	大学院卒	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	0	22	1	2	2	1	0	0	0	28
25～29歳	0	23	2	11	7	31	0	0	0	74
30～34歳	1	11	3	6	4	36	1	4	0	66
35～39歳	0	4	1	3	1	20	1	1	0	31
40～44歳	0	3	0	0	0	14	0	0	0	17
45歳～	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	66	7	22	14	103	2	5	0	220

表4 調査対象者の学歴

	男	女	計
大学卒	261	8	269
短大卒	21	12	33
高専卒	13	2	15
専門学校卒	26	5	31
中・高校卒	195	40	235
合計	516	67	583

表6 Uターン直前勤務地

東京	56	25.45%
千葉	6	2.73%
埼玉	2	0.91%
神奈川	20	9.09%
大阪	42	19.09%
兵庫	13	5.91%
愛知	10	4.55%
広島	23	10.45%
福岡	7	3.18%
他	41	18.64%
不明	0	0.00%
合計	220	100.00%

表7 Uターン後現住所

下関市	17	7.73%
宇部市	28	12.73%
山口市	23	10.45%
萩市	1	0.45%
徳山市	26	11.82%
防府市	32	14.55%
下松市	6	2.73%
岩国市	8	3.64%
小野田市	9	4.09%
光市	7	3.18%
長門市	1	0.45%
柳井市	7	3.18%
美祢市	3	1.36%
新南陽市	8	3.64%
大島郡	1	0.45%
玖珂郡	3	1.36%
熊毛郡	12	5.45%
都濃郡	0	0.00%
佐波郡	1	0.45%
吉敷郡	5	2.27%
厚狭郡	7	3.18%
豊浦郡	2	0.91%
美祢郡	0	0.00%
大津郡	0	0.00%
阿武郡	2	0.91%
その他	11	5.00%
無回答	0	0.00%
合計	220	100.00%

第2節 Uターンした経緯について

2-1 意思決定の主体

Uターン決定にあたって「最も積極的であった人」という設問で、Uターン意思決定の主体を問うた。「親」と答えた人は15%にすぎず、77%が「自分自身」と判断している。つまり、Uターン意思決定の主体は本人にあった。(表8参照)

2-2 Uターン理由

ややランダムな19の選択肢から3つ選んでもらった。

表中の「親の面倒をみる」と「親が希望した」は、回答総数のそれぞれ17.0%、8.4%で、プラスして全体の4分の1、これを一応「親のため派」と呼んでおこう。

残余の多くはほぼ一括して「脱都会派」とでも呼びたいが、この内、多い順に「山口県で生活したい」(11.0%)、「住宅事情が悪かった」(9.6%)、「以前の勤務先の仕事がいやだった」(6.5%)と続く。さらに読み込むと、能力活用可能性や職場人間関係、転勤等、総じて仕事絡みの理由を挙げた数字(仕事のため派)より、子供の教育・健康や余暇・趣味、生活環境等、個人＝家庭生活絡みの理由(生活のため派)が大きい。

Uターン理由は複合的であろう。とはいえこのUターン者調査から、彼らにUターンを踏み切らせた理由は、親問題を含めた家族生活要因(「親のため派」+「生活のため派」)に大勢があって、仕事諸要因は第一義的とはいえないだろう。

より詳しくみて、性(続柄)別では、長男は「親のため派」の縛りがややきつい。また年齢的に20歳代前半層は、「勤務先の仕事がいやだった」とUターンを選択する身軽さをもっている。世帯別で、独身層は単刀直入に「山口県で生活したい」という希望を実現させている。さらに直前勤務地別に、東京・神奈川等、首都圏からのUターン者には、住宅事情が目

立っている。(表9A・B・C・D参照)

2-3 Uターン就職情報ルート

情報は多方面から集めるだろうが、「最も役だったものを一つ」という条件を付して、8つの選択肢から選んでもらうと、県のUターンセンター（東京と大阪のUターン相談コーナーを含む）と各地職安で75%を超える。Uターン就職に関するかぎり、公共の機関は大変有力な情報媒体である。

これを「直前の勤務地」クロスさせてみると、Uターン相談コーナーのある東京と大阪でこれが威力を発揮しており、それがない広島では、職安の役割がやや大きい。(表10参照)

2-4 Uターン時の問題点

最も苦労した問題点を7つの選択肢から選んでもらった。ここでは「勤め先の確保」(45.5%)、「収入のダウン」(25.0%)、「前の勤め先の円満退社」(19.1%)と仕事絡みの諸要因で9割をしめる。先述のUターン理由は、主に家族生活要因にあったが、Uターンを実現するためクリアすべき大きな障害は、雇用・賃金等の仕事要因に求められている。(表11参照)

表8 Uターンに最も積極的だった人

自分自身	169	76.82%
配偶者	15	6.82%
子供	0	0.00%
親（配偶者の親も含む）	34	15.45%
兄弟	1	0.45%
その他	0	0.00%
無回答	1	0.45%
合計	220	100.00%

表 9 A 性（続柄）別Ｕターン理由

	男(長男)	男(長男以外)	女(長女)	女(長女以外)	合計	
親の面倒をみる	78	16	3	2	0	99
家業を継ぐ	3	0	0	0	0	3
配偶者が希望した	8	7	0	0	0	15
親が希望した	30	9	7	2	1	49
子供の教育・健康に良い	18	11	0	0	0	29
結婚のため	10	1	1	1	1	14
住宅事情が悪かった	35	19	1	1	0	56
自然環境が悪かった	12	5	1	1	0	19
生活環境が悪かった	17	9	1	0	0	27
大都市での生活が嫌になった	15	9	0	2	0	26
山口県で生活したい	41	19	3	1	0	64
余暇・趣味が楽しめる	14	12	0	3	0	29
以前の勤務先の仕事が嫌だった	22	11	3	2	0	38
以前の勤務先の人間関係が嫌だった	17	5	0	1	0	23
転勤が多かった	9	3	1	0	0	13
以前の転勤先の経営が悪化していた	7	5	1	1	0	14
能力・技術を生かせる可能性高い	22	11	0	1	0	34
現在の勤務先からの誘いがあった	4	2	0	0	0	6
その他	14	4	5	1	0	24
合計	376	158	27	19	2	582

表 9 B 年齢層別Ｕターン理由

	～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳～	無回答	合計
親の面倒をみる	0	7	27	36	18	9	2	0	99
家業を継ぐ	0	1	0	0	1	1	0	0	3
配偶者が希望した	0	1	4	3	5	2	0	0	15
親が希望した	0	5	20	14	7	3	0	0	49
子供の教育・健康に良い	0	0	8	12	6	3	0	0	29
結婚のため	0	4	7	2	1	0	0	0	14
住宅事情が悪かった	0	3	15	25	8	4	1	0	56
自然環境が悪かった	0	2	6	6	2	1	2	0	19
生活環境が悪かった	0	7	6	7	4	2	1	0	27
大都市での生活が嫌になった	0	4	7	7	5	2	1	0	26
山口県で生活したい	0	6	26	20	8	3	1	0	64
余暇・趣味が楽しめる	0	4	11	5	3	5	1	0	29
以前の勤務先が嫌だった	0	12	9	8	4	4	1	0	38
以前の勤務先の人間関係が嫌だった	0	2	8	6	4	2	1	0	23
転勤が多かった	0	1	4	2	4	2	0	0	13
以前の勤務先の経営が悪化していた	0	1	7	3	2	1	0	0	14
能力・技術を生かせる可能性高い	0	4	15	7	5	3	0	0	34
現在の勤務先からの誘いがあった	0	2	1	1	2	0	0	0	6
その他	0	5	9	5	2	2	1	0	24
合計	0	71	190	169	91	49	2	0	582

表 9 C 世帯別 U ターン理由

	独身(単身)	独身(親等 と同居)	既婚(配 偶者及び 子供)	既婚(配偶 者、子供、自 分の親)	既婚(配偶 者、子供配 偶者の親)	その他	無回答	合計
親の面倒をみる	11	22	37	18	4	6	1	99
家業を継ぐ	0	1	1	1	0	0	0	3
配偶者が希望した	0	0	10	0	3	2	0	15
親が希望した	7	18	15	3	2	3	1	49
子供の教育・健康に良い	1	0	21	4	2	1	0	29
結婚のため	4	3	5	2	0	0	0	14
住宅事情が悪かった	7	10	28	6	0	5	0	56
自然環境が悪かった	3	8	7	0	0	1	0	19
生活環境が悪かった	3	10	11	0	1	2	0	27
大都市での生活が嫌になった	6	6	9	3	1	0	1	26
山口県で生活したい	18	20	16	7	0	3	0	64
余暇・趣味が楽しめる	3	11	11	1	1	2	0	29
以前の勤務先が嫌だった	6	16	13	3	0	0	0	38
以前の勤務先の人間関係が嫌だった	8	9	4	2	0	0	0	23
転勤が多かった	2	5	4	0	2	0	0	13
以前の勤務先の経営が悪化していた	2	6	5	0	0	1	0	14
能力・技術を生かせる可能性高い	10	8	16	0	0	0	0	34
現在の勤務先からの誘いがあった	3	0	1	1	1	0	0	6
その他	5	11	6	1	1	0	0	24
合計	99	164	220	52	18	26	3	582

表 9 D 直前勤務地別 U ターン理由

	東京都	千葉県	埼玉県	神奈川県	大阪府	兵庫県	愛知県	広島県	福岡県	その他	無回答	合計
親の面倒をみる	25	4	1	5	22	9	5	11	2	15	0	99
家業を継ぐ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
配偶者が希望した	1	3	0	1	7	0	0	1	0	2	0	15
親が希望した	9	3	1	3	10	3	4	8	1	7	0	49
子供の教育・健康に良い	7	1	0	0	8	3	0	2	0	8	0	29
結婚のため	6	1	0	1	2	0	0	2	0	2	0	14
住宅事情が悪かった	20	1	2	10	13	3	2	0	0	5	0	56
自然環境が悪かった	4	0	1	3	3	1	1	0	1	5	0	19
生活環境が悪かった	8	0	0	3	6	0	1	2	2	5	0	27
大都市での生活が嫌になった	11	2	0	5	5	0	1	0	0	2	0	26
山口県で生活したい	16	2	0	5	10	3	4	5	2	17	0	64
余暇・趣味が楽しめる	8	0	1	2	5	3	0	5	1	4	0	29
以前の勤務先の仕事が嫌だった	6	0	0	4	7	1	2	5	2	11	0	38
以前の勤務先の人間関係が嫌だった	6	0	0	2	4	1	2	2	1	5	0	23
転勤が多かった	2	0	0	0	3	3	0	1	2	2	0	13
以前の勤務先の経営が悪化していた	3	0	0	2	2	1	0	3	2	1	0	14
能力・技術を生かせる可能性高い	6	0	0	3	3	3	3	3	2	11	0	34
現在の勤務先からの誘いがあった	2	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	6
その他	6	1	0	3	5	3	1	1	1	3	0	24
合計	146	18	6	52	116	39	26	53	19	107	0	582

表10 最も役立ったUターン就職情報

	親族からの情報	友人・知人から	公共の職業紹介	民間の職業紹介	新聞や雑誌の求人情報	山口県の企業からの直接の情報	山口県人材Uターンセンター	その他	無回答	合計
東京都	4	1	16	2	3	0	28	2	0	56
千葉県	2	1	0	0	0	0	3	0	0	6
埼玉県	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
神奈川県	3	0	6	0	0	0	10	0	1	20
大阪府	5	2	10	0	3	0	21	1	0	42
兵庫県	1	0	3	0	0	0	9	0	0	13
愛知県	0	3	2	0	0	0	4	0	1	10
広島県	1	0	12	0	0	1	8	0	1	23
福岡県	0	0	3	0	1	0	3	0	0	7
その他の県	7	2	11	0	3	2	16	0	0	41
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	23	9	65	2	10	3	102	3	3	220

表11 Uターン時の最も苦労した問題点

勤め先の確保	100	45.45%
住居の確保	14	6.36%
前の勤め先を円満退職すること	42	19.09%
家族の説得	8	3.64%
子供の教育問題	0	0.00%
収入のダウン	55	25.00%
その他	0	0.00%
無回答	1	0.45%
合計	220	100.00%

第3節 Uターン前後の仕事・生活条件の比較

ここでは、Uターンの前と後の仕事の業種と職種、給料や家賃、通勤時間を比較・検証しておく。

3-1 前後の業種

産業分類表を本調査用に加工して、14の選択肢から選んでもらった。

Uターン前業種では、製造業が38.2%と圧倒的で、以下は10%を切っているが、建設業、情報サービス業、その他のサービス業と続いている。

Uターン後では、製造業の比重はほとんど変わっていないが、目立って増えたのは情報サービス業、次いで卸売業といったところである。

前後で業種間異動のなかった者は、全体で40%程度である。前後で数字的にはほとんど変わりがなかった製造業では、57%が異動がなく、残余は主に情報サービス業、その他サービス業に流出し、逆に建設業、その他サービス業から流入している。また、増えた情報サービス業、卸売業では、いずれも主に製造業から流入している。(表12参照)

3-2 前後の職種

職業分類表を本調査用に加工して、11の選択肢から選んでもらった。

Uターン前職種では、事務・管理職と営業・販売職のいわゆる「事務系」職が、37.3%と最大、次いで情報処理を筆頭に、機械・電気等6つの「技術系」職で33.2%、技能・生産工の「現業職」と専門職がそれぞれ10.9%、7.7%となっている。Uターン後急増したのは、営業・販売職と情報処理技術職であって、ともに事務・管理職からの職種転換が多く、逆にそれに見合って事務・管理職は、数を減らしている。

また、前後で職種間異動のなかった者は全体で52.7%だが、営業・販売職と専門職では異動率が大きい。(表13参照)

3-3 前後の給料月額

手当を含む総月額を、6つの選択しから選んでもらった。

Uターン前では、「20~30万円」層(41.8%)を頂点に左右に拡がりがあるが、Uターン後は「30~40万円」層が22.7%、「40万円以上」層も6.4%いた。しかし、Uターン後は「30万円未満」層が急増して85.5%と圧倒的で、「30~40万円」層が12.7%に止まり、「40万円以上」層は皆無となった。

より個人に接近して、給料が上がった者は、前給料が安かった「30万円未満」層の26人(11.8%)にすぎず、下がった者が94人(42.7%)と圧倒的である(ちなみに残余の95人、43.2%は現状維持層である)。特に「30万円以上」層では、この64人中、給料が上位ランクに上がった者は1人もいず、維持できた層も「30~40万円」層の11人とわずかで、残り53

人は下がった。そして、前給料の高額層ほど、ダウン幅が激しいことも読み取れる。(表14参照)

3-4 前後の家賃・住宅ローン

Uターン前後の住宅事情を、家賃・住宅ローンに代表させて5つの選択肢から読み取ろうとした。

前後で変わらなかった者は51人で23%程度、これはUターンによって最も変化した数字の1つだろう。まず、家賃・住宅ローンがゼロ円の者が、34人から94人(42.7%)へと急増した。独身者を中心に実家に転居した層と推察される。またUターン前には「5万円以上」層が76人(34.5%)いたのだが、Uターン後は28人(12.7%)まで減り、「5万円未満」層が192人(87.3%)と圧倒的割合をしめるようになった。

より個人に接近して、これが増額した者は45人、2割程度いる。しかし彼らは、Uターン前の家賃・住宅ローンが「3万円未満」だった層である。逆にこれが減額した者は、124人(56.4%)の多数にのぼる。激変は、家計にとって大きく改善の方向だった。(表15参照)

3-5 前後の通勤時間

簡明に4つの選択肢から選んでもらったが、結論的にUターン後、短通勤時間の方に振れ改善された。すなわち、Uターン前には「30分未満」の短通勤時間者が5割程度だったが、これが75%まで増え、逆に「1～2時間」の長通勤時間者が、44人(20%)から12人(5.5%)まで減った。

より個人に接近して、通勤時間が増えた者は、Uターン前「30分未満」の短通勤時間者を中心に29人(13.2%)、逆に減った者は100人(45.5%)と、総合して大きく改善された。(表16参照)

表12 Uターン前後の業種（横軸＝前業種，縦軸＝現業種）

	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸・通信業	卸売業	小売業	飲食業	金融・保険・不動産業	情報サービス業	対事業所サービス業	対個人サービス業	その他のサービス業	官公庁	その他	無回答	合計
建設業	8	7	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	20
製造業	2	48	3	0	5	1	0	2	9	2	0	9	0	3	0	84
電気・ガス・水道業	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5
運輸・通信業	0	2	0	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	8
卸売業	0	2	0	1	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	9
小売業	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	8
飲食業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金融・保険・不動産業	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
情報サービス業	1	2	0	0	0	0	0	0	14	0	1	0	0	0	0	18
対事業所サービス業	0	3	1	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	9
対個人サービス業	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
その他のサービス業	1	6	0	0	1	1	0	0	3	0	0	3	0	0	0	15
官公庁	1	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
その他	0	5	2	0	0	2	0	3	5	2	1	1	0	7	0	28
無回答	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	15	86	7	3	15	8	0	7	38	8	3	16	1	13	0	220

表13 Uターン前後の職種（横軸＝前職種、縦軸＝現職種）

	機械技術	電気技術	化学技術	鉱工業技術	土木建築技術	情報処理技術	専門職	事務・管理	営業・販売	技能・生産工	その他	無回答	合計
機械技術	8	2	2	0	1	1	0	0	2	0	0	1	17
電気技術	0	10	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	13
化学技術	0	0	6	0	0	0	0	1	0	0	1	0	8
鉱工業技術	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
土木建築技術	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	1	0	9
情報処理技術	1	0	0	0	0	22	1	0	0	0	0	0	24
専門職	1	1	1	1	0	2	4	2	4	1	0	0	17
事務・管理	1	1	0	0	0	7	2	26	14	2	0	0	53
営業・販売	1	1	0	0	0	1	3	3	15	3	2	0	29
技能・生産工	3	0	0	0	1	1	2	0	3	13	1	0	24
その他	0	2	0	0	0	1	1	3	4	4	4	0	19
無回答	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	5
合計	15	18	10	2	9	37	14	36	42	25	10	2	220

表14 Uターン前後の給料月額（横軸＝前給料、縦軸＝現給料）

	15万円未満	15～20万円未満	20～30万円未満	30～40万円未満	40～50万円未満	50万円以上	無回答	合計
15万円未満	4	14	7	0	0	0	0	24
15～20万円未満	4	29	23	4	0	1	0	61
20～30万円未満	1	10	52	33	7	0	0	103
30～40万円未満	0	1	10	11	3	3	0	28
40～50万円未満	0	0	0	0	0	0	0	0
50万円以上	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	2	0	2	0	0	0	4
合計	8	56	92	50	10	4	0	220

表15 Uターン前後の家賃・住宅ローン（横軸＝前家賃・住宅ローン，
縦軸＝現家賃・住宅ローン）

	0円	3万円未満	3～5万円未満	5～10万円未満	10万円以上	無回答	合計
0円	19	29	20	24	2	1	94
3万円未満	9	15	11	10	0	0	45
3～5万円未満	5	13	9	21	4	0	51
5～10万円未満	2	8	4	10	2	0	26
10万円以上	0	1	0	1	0	0	2
無回答	0	0	1	1	0	0	2
合計	34	66	44	67	8	1	220

表16 Uターン前後の通勤時間（横軸＝前通勤時間，縦軸＝現通勤時間）

	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間以上	無回答	合計
30分未満	81	50	33	0	1	165
30分～1時間未満	19	11	9	2	0	41
1時間～2時間未満	6	4	2	0	0	12
2時間以上	0	0	0	0	0	0
無回答	2	0	0	0	0	2
合計	108	65	44	2	1	220

第4節 Uターン結果の判定

4-1 総合判定

まず、「Uターン就職してよかった」か、簡明に5段階評価してもらった。

「良かった」という積極的肯定派70人、「まあ良かった」という消極的肯定派72人、合わせて65%、約3人に2人が肯定的評価を与えている。

逆に「悪かった」と断定した者はわずか9人、「やや悪かった」という者をプラスしても否定派は28人、13%に満たない。残余はその中間で、「どちらともいえない」と判断に迷っている層である。総合的に、Uター

ンで生活は良くなったと判定して差し支えないであろう。

なお、地域（現住所）別でも目立った差異は発見できなかった。（表17参照）

4-2 項目別判定

次いでより詳しく、「賃金」以下13の項目を設定して、Uターン結果を3段階で評価してもらった。

(1) 賃金

「良くなった」と判定した者は15%程度で、「悪くなった」とした者が66%、世帯別でも圧倒的に否定的方向に振れている。この評価は、「前節3-3」の事実調査と照応しており、Uターン後最も厳しくなった項目の1つが「賃金」である点で、改めて確認できる。（表18参照）

(2) 労働時間・休日

これも悪化方向に振れてはいるが、賃金ほどに厳しくはない。すなわち、「悪くなった」とした者が43%いるのに対し、「良くなった」とする者も35%とかなり接近している。現に、柳井や宇部へのUターン者などには改善組の方が多い。（表19参照）

(3) 職場環境

この質問は物理的なそれ、心理的なそれを含み判定に迷うだろう。事実「変わらない」という中間回答が39%で最大だったが、残余は肯定と否定で折半されている。

地域別では、肯定に振れた防府・宇部・徳山・柳井、否定に振れた下関・小野田・岩国・下松と一応区分けできる。（表20参照）

(4) 通勤時間

これは「良くなった」とする者54%、「悪くなった」とする者10%とはっきり改善方向に振れている。この評価も、「前節3-5」の事実分析に照応している。

また地域別では、山口市の他、徳山・新南陽・下松・岩国等、県東部で改善が顕著と読み取れる。（表21参照）

(5) 住宅事情

これも先の質問、「前節3-4 家賃・住宅ローン」分析に照応して、改善方向が顕著であった。すなわち、「悪くなった」と判定した者は11%にすぎず、67%は「良くなった」としている。

ここでは、親と同居したUターン者、特に、既婚・3世代世帯で改善が認められる点に注目したい。さらに地域別では、郡部で改善傾向が大きい。下関市で例外的にそれが鈍いといえよう。(表22A・B参照)

(6) 家計のゆとり度

賃金の下落が予想できるところであった(事実、本調査でもそうであった)から、この質問は大切である。

結論として、賃金の下落結果ほどではなかったが、やはりそれに影響されて悪化方向に振れた。すなわち「悪くなった」とする者が最大で38%、逆の「良くなった」とする者は27%に止まった。

世帯別では、既婚世帯で総じて厳しい反面、親と同居した独身だけ改善方向が顕著である。地域別では、防府を除き代表的市部で厳しく、岩国・美祢や郡部で改善方向といえる。(表23A・B参照)

(7) 家族の健康

抽象的・総合的な質問であるからでもあろう、「変わらない」という中間意見が56%に上がったが、残余では圧倒的に改善方向に振れている。「悪くなった」という者はわずか11人(5%)にすぎない。改善傾向は全世界帯、全県的に共通している。(表24A・B参照)

(8) 家族のだんらん

「良くなった」と判定した者が53%と高く、「悪くなった」とした者は8%程度にすぎない。これも全県・全世界帯的に共通した改善傾向であった。(表25A・B参照)

(9) 教育環境

この質問は本人の教育観、子供の有無とその年齢に大きく左右される難しい質問であろう、51%の過半が「変わらない」という中間意見であっ

た。しかし、残余の3分の2は「良くなった」と改善方向に振れている。全県・全世帯別にも目立った差異がない。(表26 A・B参照)

(10) 余暇の活用

この質問も本人の余暇観、趣味の種類・性格に依存するであろう。が、結論的に「良くなった」とした者が全体の45%で、「悪くなった」とした者を倍近く上回る。世帯別には、全範疇で改善方向に振れているが、地域別では、徳山・光という周南で逆に悪化方向への振れが読み取れる。(表27 A・B参照)

(1) 地域での交流

Uターン後の浅い期日、若い世代ということもあってか、「変わらない」という中間意見が過半数の53%をしめた。しかし残余の4人に3人近くは改善方向に振れ、いわゆる「東京砂漠」を解消している。世帯別・地域別とも際立った差異もなく、総じてあまり活発とは見えないが、改善方向が読み取れる。(表28 A・B参照)

(2) 生活の便利さ

これは「悪くなった」が56%と、はっきり悪化方向に振れ、「良くなった」は24%にすぎない。生活時間テンポの切替えが速まった現代人にとって、郷里は以前より生活の便利性に劣るという結果であった。世帯別・全県別にも「良くなった」という範疇は見あたらない。(表29 A・B参照)

(3) 自然環境

「良くなった」が78%とダントツで、「悪くなった」は3%にすぎない。極めてはっきり改善方向に振れた。(表30参照)

以上、ここでの小括としてこれら13項目を、①改善されたもの、②あいまいだが、改善傾向が認められるもの、③あいまいだが悪化傾向が認められるもの、④悪化したものと、この13項目を色分けしておこう。

改善著しいものから悪化したものまで順次並べると、①自然環境、住宅事情、通勤時間、家族との団欒、余暇の活用、②家族の健康、地域での交

流、教育環境、職場環境、③家計のゆとり度、労働時間、④生活の便利さ、賃金の順であった。

設定した項目では、改善の方が多い。この点が先の質問「総合判定」で、Uターン結果肯定に大きく傾いたとも評価できよう。しかし、Uターンで失ったものと勝ち取ったものとの得失は、本人の価値観で大きく異なっていよう。ただ総体的には、仕事条件で失ったものを、個人＝家族の生活条件で十分補ってお釣りが出たと判定できよう。

4-3 定住志向

先の「総合判定」、「項目別判定」が、概ね今後の地元定住にも連動すると推察できる。「生涯定住するつもり」の明確に答えた者が、大きく57%いる。しかし、将来は「わからない」とした者も3人に1人いる。残りは移住志向で7%と僅かであった。

性別では、事例は少ないが、若く未婚が多かった女で、大きく「わからない」に振れるのは仕方ないだろう。その分、男は定住志向に振れている。年齢層別では、若いほど定住志向が薄く、歳を取るに比例してこれが高まる傾向がはっきりしている。また、世帯別では未婚が独居、親と同居とも定住志向が薄く、既婚、特に親と同居世帯ほど顕著に定住志向が高まることもうなずけよう。さらに現住所別では、徳山・防府を除き、全県的に定住志向が強い。(表31A・B・C・D参照)

表17 Uターナー結果の総合判定（地域別）

	良かった	まあ良かった	どちらとも取えない	あまり良くなかった	悪かった	無回答	合計
下関市	6	3	6	1	1	0	17
宇部市	11	11	7	4	1	0	28
山口市	7	9	4	2	1	0	23
萩市	0	0	1	0	0	0	1
徳山市	9	5	7	3	2	0	26
防府市	11	10	6	4	1	0	32
下松市	2	2	2	0	0	0	6
岩国市	2	4	2	0	0	0	8
小野田市	1	1	3	2	2	0	9
小光市	4	3	0	0	0	0	7
長門市	0	1	0	0	0	0	1
柳井市	2	4	0	0	1	0	7
美祿市	2	1	0	0	0	0	3
新南陽市	3	4	1	0	0	0	8
大島郡	1	0	0	0	0	0	1
玖珂郡	2	1	0	0	0	0	3
熊毛郡	5	4	1	1	0	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	0	0	1
吉敷郡	0	2	3	0	0	0	5
厚狭郡	2	2	1	1	0	1	7
豊浦郡	2	0	0	0	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	1	0	0	0	2
その他	3	4	2	1	0	1	11
無回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	70	72	47	19	9	3	220

表18 Uターナー後の賃金（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
独身(単身)	9	7	23	0	39
核身(親など同居)	11	15	41	1	68
既婚(配偶者及び子供)	11	13	53	0	77
既婚(配偶者・子供・自分の親)	2	3	14	0	19
既婚(配偶者・子供・配偶者の親)	0	0	7	0	7
その他	0	2	7	0	9
空白	1	0	0	0	1
合計	34	40	145	1	220

表19 Uターナー後の労働時間、休日（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	4	5	8	0	17
宇部市	11	8	9	0	28
山口市	6	7	10	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	11	3	12	0	26
防府市	12	5	15	0	32
下松市	2	1	3	0	6
岩国市	2	2	4	0	8
小野田市	1	2	6	0	9
小光市	1	2	4	0	7
長門市	0	0	1	0	1
柳井市	6	0	1	0	7
美祿市	1	0	2	0	3
新南陽市	3	2	3	0	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	0	2	1	0	3
熊毛郡	7	1	3	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	1	1	3	0	5
厚狭郡	3	1	3	0	7
豊浦郡	1	0	1	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	5	1	5	0	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	78	46	95	1	220

表20 Uターン後の職場環境（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	4	5	8	0	17
宇部市	8	16	4	0	28
山口市	7	8	8	0	23
山形市	0	1	0	0	1
徳山市	9	10	6	1	26
防府市	11	14	7	0	32
下松市	1	2	3	0	6
岩国市	1	3	4	0	8
小野田市	2	1	6	0	9
光市	2	3	2	0	7
長門市	0	0	1	0	1
柳井市	3	3	1	0	7
美祿市	3	0	0	0	3
新南陽市	1	4	2	1	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	6	3	2	1	12
熊毛郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	1	2	2	0	5
厚狭郡	3	1	3	0	7
豊浦郡	1	0	1	0	2
美祿郡	0	0	0	0	1
大津郡	0	0	0	0	1
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	2	5	3	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	67	86	63	4	220

表21 Uターン後の通勤時間（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	9	3	5	0	17
宇部市	14	6	8	0	28
山口市	15	6	2	0	23
山形市	0	1	0	0	1
徳山市	14	10	2	0	26
防府市	16	10	6	0	32
下松市	3	3	0	0	6
岩国市	5	3	0	0	8
小野田市	5	3	1	0	9
光市	3	3	1	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	2	3	2	0	7
美祿市	2	0	1	0	3
新南陽市	6	2	0	0	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	7	1	3	1	12
熊毛郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	2	1	2	0	5
厚狭郡	3	2	2	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	1	0	0	2
その他	7	2	2	0	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	118	61	40	1	220

表22A Uターン後の住宅事情（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
独身（単身）	20	11	7	1	39
独身（親など同居）	48	15	3	2	68
既婚（配偶者及び子供）	49	14	14	0	77
既婚（配偶者・子供・自分の親）	14	4	0	1	19
既婚（配偶者・子供・兄弟姉妹の親）	7	0	0	0	7
その他	9	0	0	0	9
空白	1	0	0	0	1
合計	148	44	24	4	220

表 22B Uターン後の住宅事情 (地域別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	8	3	6	0	17
宇部市	19	7	2	0	28
山口市	16	6	1	0	23
萩市	0	1	0	0	1
徳山市	16	3	7	0	26
防府市	19	9	3	1	32
下松市	5	0	1	0	6
岩国市	7	1	0	0	8
小野田市	6	3	0	0	9
小光市	3	2	1	1	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	6	0	1	0	7
美祢市	3	0	0	0	3
新南陽市	6	2	0	0	8
大玖波郡	0	1	0	0	1
玖波郡	2	1	0	0	3
熊毛郡	8	3	0	1	12
瀧部郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	5	0	0	0	5
厚狭郡	6	1	0	0	7
豊浦郡	2	0	0	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	1	0	2
その他	8	1	1	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	148	44	24	4	220

表 23A Uターン後の家計のゆとり度 (世帯別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
独身(単身)	10	14	13	2	39
独身(親などと同居)	26	26	14	2	68
既婚(配偶者及び子供)	13	25	39	0	77
既婚(配偶・子供・自分の親)	6	3	10	0	19
既婚(配偶者・子供・配偶者の親)	0	2	5	0	7
その他	4	3	2	0	9
空白	0	1	0	0	1
合計	59	74	83	4	220

表 23B Uターン後の家計のゆとり度 (地域別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	4	4	9	0	17
宇部市	5	12	11	0	28
山口市	5	6	12	0	23
萩市	0	0	1	0	1
徳山市	4	12	10	0	26
防府市	11	10	10	1	32
下松市	2	2	2	0	6
岩国市	3	5	0	0	8
小野田市	0	5	4	0	9
小光市	1	3	3	0	7
長門市	0	0	1	0	1
柳井市	1	3	3	0	7
美祢市	3	0	0	0	3
新南陽市	2	3	2	1	8
大玖波郡	1	0	0	0	1
玖波郡	1	1	1	0	3
熊毛郡	6	3	2	1	12
瀧部郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	2	1	2	0	5
厚狭郡	2	0	5	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	1	0	0	2
その他	4	2	4	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	59	74	83	4	220

表 24A Uターン後の家族の健康（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
独身（単身）	10	25	1	3	39
独身（親などと同居）	28	31	5	4	68
既婚（配偶者及び子供）	28	46	3	0	77
既婚（配偶・子供・自分別居）	5	13	1	0	19
既婚（配偶者・子供・配偶者の別居）	3	4	0	0	7
その他	4	4	1	0	9
空白	0	1	0	0	1
合計	78	124	11	7	220

表 24B Uターン後の家族の健康（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	4	12	0	1	17
宇部市	13	15	0	0	28
山口市	7	14	2	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	4	20	2	0	26
防府市	14	13	3	2	32
下松市	2	4	0	0	6
岩国市	4	4	0	0	8
小野田市	1	6	2	0	9
光市	0	7	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	2	5	0	0	7
美祿市	1	2	0	0	3
新南陽市	1	6	0	1	8
大玖波郡	1	0	0	0	1
玖波郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	7	4	0	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	2	3	2	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	0	1	2
その他	4	6	0	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	78	124	11	7	220

表 25A Uターン後の家族のだんらん（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
独身（単身）	19	13	2	5	39
独身（親などと同居）	40	23	3	2	68
既婚（配偶者及び子供）	38	51	8	0	77
既婚（配偶・子供・自分別居）	9	5	5	0	19
既婚（配偶者・子供・配偶者の別居）	5	2	0	0	7
その他	5	3	0	1	9
空白	1	0	0	0	1
合計	117	77	18	8	220

表 25B Uターン後の家族のだんらん (地域別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	無 回 答	合 計
下 関 市	10	5	1	1	17
宇 部 市	21	6	1	0	28
山 口 市	11	10	2	0	23
萩 市	0	1	0	0	1
徳 山 市	11	12	3	0	26
防 府 市	19	7	5	1	32
下 松 市	2	4	0	0	6
岩 国 市	5	2	0	1	8
小 野 田 市	4	2	3	0	9
光 市	3	4	0	0	7
長 門 市	1	0	0	0	1
柳 井 市	4	3	0	0	7
美 祿 市	1	1	1	0	3
南 陽 市	4	3	0	1	8
大 島 郡	1	0	0	0	1
玖 珂 郡	2	1	0	0	3
熊 毛 郡	6	4	1	1	12
都 濃 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	1	0	0	0	1
吉 敷 郡	3	2	0	0	5
厚 狭 郡	3	4	0	0	7
豊 浦 郡	1	1	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	1	1	0	0	2
そ の 他	3	4	1	3	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	117	77	18	8	220

表 26A Uターン後の教育環境 (世帯別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	無 回 答	合 計
独 身 (単身)	0	21	2	7	39
独身 (親などと同居)	23	33	5	7	68
既婚 (配偶者及び子供)	20	42	13	2	77
既婚 (配偶・子供・自分の親)	2	11	5	1	19
既婚 (配偶者・子供・配偶者の親)	4	3	0	0	7
その他	2	1	4	2	9
空 白	0	1	0	0	1
合 計	60	112	29	19	220

表 26B Uターン後の教育環境 (地域別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	無 回 答	合 計
下 関 市	3	10	3	1	17
宇 部 市	10	15	2	1	28
山 口 市	9	9	4	1	23
萩 市	0	1	0	0	1
徳 山 市	7	16	2	1	26
防 府 市	9	15	5	3	32
下 松 市	2	2	2	0	6
岩 国 市	4	2	1	1	8
小 野 田 市	1	8	0	0	9
光 市	1	4	2	0	7
長 門 市	1	0	0	0	1
柳 井 市	1	4	2	0	7
美 祿 市	1	1	1	0	3
南 陽 市	0	7	0	1	8
大 島 郡	1	0	0	0	1
玖 珂 郡	2	0	1	0	3
熊 毛 郡	3	5	0	4	12
都 濃 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	0	0	1	0	1
吉 敷 郡	1	4	0	0	5
厚 狭 郡	2	3	2	0	7
豊 浦 郡	0	2	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	1	0	0	1	2
そ の 他	1	4	1	5	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	60	112	29	19	220

表 27A Uターン後の余暇の活用（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無 回 答	合 計
独 身（単身）	17	11	10	1	39
独身（親などと同居）	32	17	18	1	68
既婚（配偶者及び子供）	34	26	17	0	77
既婚（配偶・子供・自分の親）	6	9	4	0	19
既婚（配偶者・子供・配偶者の親）	6	0	1	0	7
その他	5	0	4	0	9
空 白	0	1	0	0	1
合 計	100	64	54	2	220

表 27B Uターン後の余暇の活用（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無 回 答	合 計
下 関 市	8	5	4	0	17
宇 部 市	11	9	8	0	28
山 口 市	9	8	6	0	23
萩 市	1	0	0	0	1
徳 山 市	9	6	11	0	26
防 府 市	17	5	10	0	32
下 松 市	3	1	2	0	6
岩 国 市	4	3	1	0	8
小 野 田 市	2	6	1	0	9
光 市	1	4	2	0	7
長 門 市	1	0	0	0	1
柳 井 市	4	2	1	0	7
美 祿 市	1	1	1	0	3
新 南 陽 市	5	2	1	0	8
大 島 郡	0	1	0	0	1
玖 波 郡	1	0	2	0	3
阿 毛 郡	5	5	1	1	12
熊 波 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	1	0	0	0	1
吉 敷 郡	2	2	1	0	5
厚 狭 郡	6	1	0	0	7
豊 浦 郡	1	1	0	0	2
豊 前 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	1	1	0	0	2
そ の 他	7	1	2	1	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	100	64	54	2	220

表 28A Uターン後の地域での交流（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無 回 答	合 計
独 身（単身）	9	23	5	2	39
独身（親などと同居）	23	34	9	2	68
既婚（配偶者及び子供）	25	43	9	0	77
既婚（配偶・子供・自分の親）	6	11	2	0	19
既婚（配偶者・子供・配偶者の親）	5	1	1	0	7
その他	3	4	2	0	9
空 白	1	0	0	0	1
合 計	72	116	28	4	220

表 28B Uターン後の地域での交流（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	6	10	1	0	17
宇都部市	7	16	4	1	28
山口市	7	13	3	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	7	12	7	0	26
防府市	10	15	6	1	32
下松市	1	5	0	0	6
岩国市	2	5	1	0	8
小野田市	4	3	2	0	9
小光市	3	4	0	0	7
長門市	0	0	1	0	1
柳井市	4	2	1	0	7
美祿市	1	1	1	0	3
新南陽市	1	7	0	0	8
大島郡	1	0	0	0	1
玖珂郡	0	3	0	0	3
熊毛郡	6	4	1	1	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	2	3	0	0	5
厚狭郡	2	5	0	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	5	5	0	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	72	116	28	4	220

表 29A Uターン後の生活の便利さ（世帯別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
独身（単身）	7	9	21	2	39
独身（親などと同居）	19	11	37	1	68
既婚（配偶者及び子供）	18	16	42	1	77
既婚（配偶・子供・自分の親）	3	2	14	0	19
既婚（配偶・子供・配偶者の親）	3	1	3	0	7
その他	2	0	7	0	9
空白	0	1	0	0	1
合計	52	40	124	4	220

表 29B Uターン後の生活の便利さ（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	4	4	9	0	17
宇都部市	7	7	13	1	28
山口市	5	3	15	0	23
萩市	0	1	0	0	1
徳山市	5	6	15	0	26
防府市	12	3	17	0	32
下松市	2	1	3	0	6
岩国市	1	2	5	0	8
小野田市	4	1	4	0	9
小光市	1	1	5	0	7
長門市	0	0	1	0	1
柳井市	0	3	4	0	7
美祿市	1	0	2	0	3
新南陽市	3	2	2	0	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	0	0	3	0	3
熊毛郡	4	1	6	1	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	0	1	4	0	5
厚狭郡	0	1	5	1	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	3	1	6	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	52	40	124	4	220

表30 Uターン後の自然環境（地域別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	合計
下関市	11	6	0	0	17
宇部市	22	5	0	1	28
山口市	20	3	0	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	18	6	2	0	26
防府市	25	6	1	0	32
下松市	5	1	0	0	6
岩国市	6	1	1	0	8
小野田市	5	4	0	0	9
光市	7	0	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	6	0	1	0	7
美祢市	3	0	0	0	3
新南陽市	5	3	0	0	8
大島郡	1	0	0	0	1
玖珂郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	10	1	0	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	5	0	0	0	5
厚狭郡	4	0	2	1	7
豊浦郡	2	0	0	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	2	0	0	0	2
その他	8	2	0	1	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	171	38	7	4	220

表31A 将来の定住志向（性、続柄別）

	男（長男）	男（長男以外）	女（長女）	女（長女以外）	空	白	合計
生涯定住するつもり	85	37	3	1	0	0	126
身の置かざる所が（知れず）に定住するつもり	4	0	0	0	0	0	4
子育てができれば、戻りたい	1	0	0	0	0	0	1
ある時期には移住するだろう	6	0	4	0	0	0	10
わからない	40	19	8	6	1	0	74
無回答	4	1	0	0	0	0	5
合計							

表31B 将来の定住志向（年令層別）

	～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳～	無回答	合計
生涯定住するつもり	0	11	40	41	20	12	2	0	126
身の置かざる所が（知れず）に定住するつもり	0	1	0	1	2	0	0	0	4
子育てが立ちすれば、老後はついていく	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ある時期には移住するだろう	0	2	7	1	0	0	0	0	10
わからない	0	14	25	21	8	4	2	0	74
無回答	0	0	2	2	1	0	0	0	5
合計	0	28	74	66	31	17	4	0	220

表31C 将来の定住志向（世帯別）

	独身（単身）	独身（親などと同居）	既婚（配偶者及び子供）	既婚（配偶者・子供）	既婚（配偶者・子供・配偶者の親）	その他	無回答	合計
生涯定住するつもり	20	29	50	14	7	5	1	126
身の置かざる所が（知れず）に定住するつもり	0	2	2	0	0	0	0	4
子育てが立ちすれば、老後はついていく	0	0	0	1	0	0	0	1
ある時期には移住するだろう	1	7	2	0	0	0	0	10
わからない	17	28	21	4	0	4	0	74
無回答	1	2	2	0	0	0	0	5
合計	39	68	77	19	7	9	1	220

表 31D 将来の定住志向 (地域別)

	生涯定住するつもり	身内(親などの)の事情がなくなれば圏外に移住	子供が独立すれば、老後はついていく	ある時期には移住するだろう	わからない	無回答	合計
下関市	10	1	0	2	4	0	17
宇部市	17	1	0	1	9	0	28
山口市	14	0	0	0	9	0	23
萩市	1	0	0	0	0	0	1
徳山市	12	1	0	2	10	1	26
防府市	16	0	0	4	12	0	32
下松市	3	0	0	0	3	0	6
岩国市	5	0	1	0	2	0	8
小野田市	5	0	0	0	4	0	9
光長市	6	0	0	0	1	0	7
長門市	1	0	0	0	0	0	1
柳井市	4	0	0	0	3	0	7
美弥市	2	0	0	0	1	0	3
新南陽市	6	0	0	0	1	1	8
大島郡	0	0	0	0	1	0	1
秋珂郡	3	0	0	0	0	0	3
熊毛郡	7	0	0	1	4	0	12
濃波郡	0	0	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	0	0	1
吉敷郡	2	0	0	0	3	0	5
厚狭郡	4	1	0	0	2	0	7
豊浦郡	2	0	0	0	0	0	2
美津郡	0	0	0	0	0	0	0
大阿武郡	0	0	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	0	0	1	0	2
その他	4	0	0	0	4	3	11
無回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	126	4	1	10	74	5	220

第5節 Uターン郷土の評価と街づくり計画について

これまでの分析結果で、総じて肯定的なUターン判定から生涯にわたる定住志向を評価できても、そうならばこそ、この事実を出発点として、Uターン者から定住する郷土の街づくりに関わって、改めて地元評価と、あるべき街づくり方向を聞いておくことが大切である。本調査の最終目的もこの点にあった。

5-1 項目別郷土評価

簡単な郷土評価を9項目してもらった。ここでは、「そう思う」という判定を1点、「どちらともいえない」という評価を0点、そして「違う」という判定を-1点とし、単純合計した数字を全回答数220で割って、パーセントが高いほど「肯定度」が高いとした。かつ、全回答220に対する「どちらともいえない」とした判定の割合を「あいまい度」として計算する。ちなみに「あいまい度」が高いことは、回答者全体からみて、その回答に確信が持たれていないことを意味する。図1は、これを図示したものである。

回答結果は、結論的に3つの群に分かれた。すなわち、①ははっきり肯定されたもの、②肯定・否定相半ばし、かつあいまいなもの、③ははっきり否定されたものである。

①には順に「自然が豊かで美しい」、「暮しやすい気候である」、「素朴な土地柄である」、「水や食べ物おいしい」さらに「歴史と伝統がある」が属する。とはいえ、最後の「歴史と伝統がある」は肯定度が低まって、かつあいまい度も増している。

②にはただ一つ、はっきり「よそ者でもとけ込める」が入る。

そして③には、「活気がある」、「革新的である」、「近代的である」が属し、この順に否定の割合が強まっている。

以上が、既Uターン県民の全体的な地元の風土評価であるが、以下では

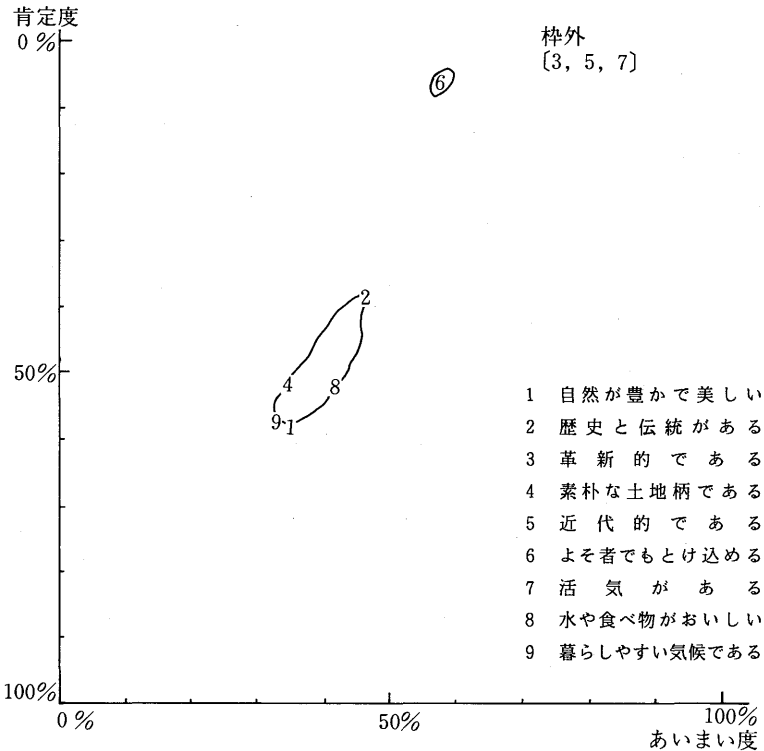
地域別を中心に、各項目評価の特徴をみてみよう。

(1)「自然が豊かで美しい」は全県的に肯定されているが、ただし、下関・小野田・新南陽といった工業都市ではあいまい度が高く、十分確信されているとは言い難い。また年齢層別では、20歳代の若者ほど肯定しており、30歳以降はあいまい度が高まる。(表32A・B参照)

(2)「暮らしやすい気候である」は、全県的に支持されている。(表33参照)

(3)「素朴な土地柄である」は、あいまい度の高い宇部を例外として、全県的に肯定されている。また、年齢的には40歳代、性別では女でそれぞれ回答数は少ないが、あいまい度が高い。(表34A・B・C参照)

図1 項目別郷土評価



- (4)「水や食べ物がおいしい」は、徳山であいまい度が高いが、全県的に肯定されており、特に下関などで評価が高い。年齢的には20歳代前半層のみ、あいまい度が高い。(表35 A・B)
- (5)「歴史と伝統がある」という項目は、総数であいまい度が高く、かつ地域で評価がばらついている。市部で肯定に振れているのは山口・防府などで、徳山・宇部・小野田など工業都市では、あいまい度が大きい。(表36 参照)
- (6)「よそ者でもとけ込める」という項目は、全県的に極めてあいまい度の高い回答であった。各地で「どちらともいえない」という回答がトップをしめている。(表37参照)
- (7)「活気がある」と判定した者は、全県で8人(3.6%)しかいない。地域的には下関・山口で否定派が際立っており、徳山など周南であいまい度が高い。性別では、女の評価が厳しいといえようか。(表38 A・B参照)
- (8)「革新的である」とした者も7人しかいない。ここでもあいまい度の高い徳山・柳井を例外に、下関などでは圧倒的に否定派である。年齢層別では、歳をとるほど否定派に振れている。(表39 A・B参照)
- (9)「近代的である」と肯定した者にいたっては、わずか3人である。あいまい度の方が高いのは岩国だけにすぎず、全県的に否定されている。(表40参照)

以上をまとめるに、穏やかな気候や豊かで美しい自然から導かれる素朴な土地柄と、美味な食べ物が高く評価される一方、活気ある街に必要な近代性・革新性が大きく否定されている。

5-2 山口県の「住み良さ」全国8位というランクについての印象

一昨年、経企庁は「県別豊かさ指標」調査を行ったが、そこで山口県は「住み良さ」全国8位であった。この結果を、Uターン者の印象と比較してもらった。

山口県はその調査結果以上で、「思ったより低い」とした者はさすがに少なく、5%程度である。とはいえ、全国8位を「順当である」と判定し

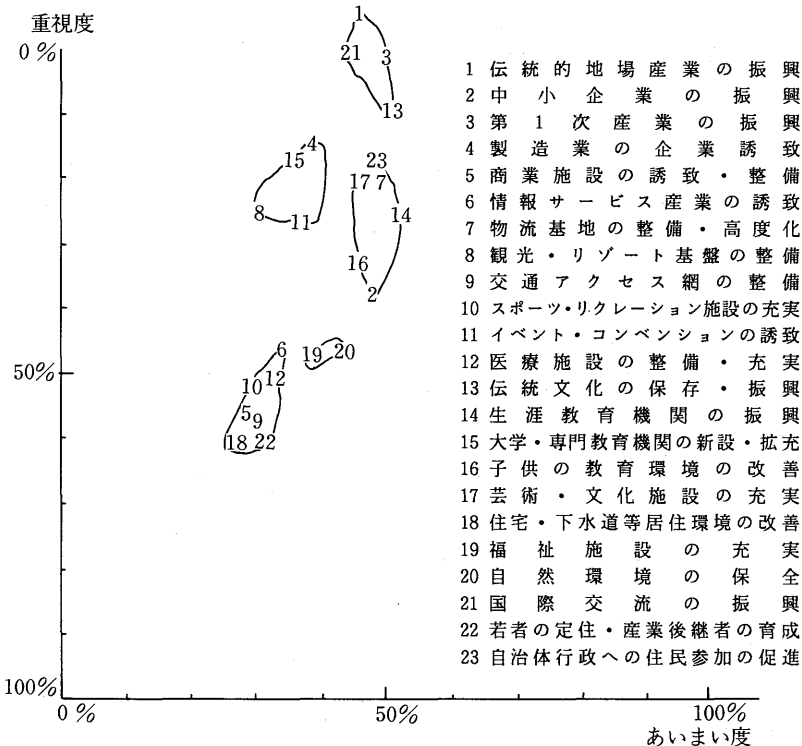
た者が37%とおり、この両者をプラスすると42%に達し、「思ったより高い」とした者と同率であった。肯定と否定が拮抗した数字ながら、それが「住み良さ」Aランクをめぐる回答であったという点で、Uターン者から、山口県は高く評価されていると指摘したい。

年齢的には、20歳代の若い層ほど評価が高そうである。また先の質問のUターン総合判定で、「良かった」と言い切っている層、さらに生涯定住志向層ほど、目立って高い評価を与えた点うなずけよう。(表41A・B・C参照)

5-3 地域の発展のために重視したい点

以上の地元評価を前提に、Uターン者は今後の地域発展のために何を重

図2 地域発展のために重視する項目



視しているのか。ここでは23項目を設定して、「大変重要」、「かなり重要」、「重要でない」の内、どれかに○を付けてもらった。そこで次の操作によって各項目の総合判定を行う。

各項目に付き「大変重要」を1点、「かなり重要」を0点、「重要でない」を-1点とし、これを単純合計した数字を全回答数220で割って、そのパーセントが高いほど「重視度」が高いと評価する。次に「かなり重要」、つまり0点の回答数が高いほど「あいまい度」が高いとして、その割合を計算する。図2はこれを図示したものだが、結果を総合的にみれば、23の項目は次の5つの群に分かれてくるようである。すなわち

- (1) あまり重要とは意識されておらず、あいまい度も高いものとして、
 - ①伝統的地場産業の振興、②国際交流の振興、③第一次産業の振興、⑬伝統的文化の保存・振興
- (2) それなりに重要だと思われているものとして、
 - ④製造業の企業誘致、⑮大学・専門教育機関の新設・拡充、⑧観光・リゾート基盤の整備、⑩イベント・コンベンションの誘致
- (3) かなり重要だが、あいまい度が高く十分には確信されていないものとして、
 - ⑦物流基地の整備・高度化、⑭自治体行政への住民参加の促進、⑰芸術・文化施設の充実、⑱生涯教育機関の振興、⑯子供の教育環境の改善、②中小企業の振興
- (4) 重要だがただし、あいまい度のやや高いものとして、
 - ⑨福祉施設の充実、⑩自然環境の保全
- (5) 大変重要だとはっきり意識されているものとして、
 - ⑮住宅・下水道等居住環境の改善、⑭若者定住・産業後継者の育成、⑤商業施設の誘致・整備、⑨交通アクセス網の整備、⑩スポーツ・レクリエーション施設の充実、⑫医療施設の整備・充実、⑥情報サービス産業の誘致

以上だが、この結果から法則性を指摘することは難しい。ただ、「Uターン者」という属性も反映しながら、地味で日常性と緊急性の高い生活基盤

整備の要望が高いこと、また産業的には、地域に伝統的なものから近代的なものへの脱皮が、人材育成も含めて重視されているとまとめてみたい。

以下は、各項目についての簡単な分析である。地域別（現住所別）を中心に、特徴的な事実だけ記しておく。

①の「伝統的地場産業の振興」は最も重視度が低く、唯一マイナスだった項目である。地域別では、徳山などで低いが、下関・山口ではやや高い。現職種別では、情報処理など技術職がむしろ重視しているが、事務・管理職、技能・生産職は重視していない。（表42A・B参照）

②の「中小企業の振興」は、あいまい度が高かったが、下関・防府・新南陽などでは重視の方向に振れている。また、東京と広島からのUターン者が重視しているのに対し、大阪からのUターン者はあいまい度が高い。（表43A・B参照）

③の「第一次産業の振興」はあいまい度が高く、重要度も低い。年齢的にはむしろ20歳代の若い方が重視の方向に振れている。また、郡部の方で重視されているというわけでもない。（表44A・B参照）

④の「製造業の企業誘致」は、重視の方にやや振れている。年齢別では、これも20歳代の若者ほど重視の方に、年齢が増すほどあいまい度が高くなって、かつ否定の方に振れていく。地域的には下関・防府で重要度が高く、重視しない岩国と対照的である。

また、首都圏からのUターン者が重視の方向に振れるのに対し、大阪圏からのそれは重視しない方向に振れている。さらに、現業種別では製造業従事者ほど、現職種別では技能・生産職と機械技術職で重要度が高まるのも当然といえようか。（表45A・B・C・D・E参照）

⑤の「商業施設の誘致・整備」は、はっきりと重要度が高い。その傾向は女に、地域的には岩国を例外として全県的にそうである。また、現業種別で卸・小売業従事者に、現職種別では営業・販売職で重要度が高かった

点、当然といえよう。(表46A・B・C・D参照)

⑥の「情報サービス産業の誘致」も重要視された。地域的には小野田が例外で、特に徳山・防府で重要度が高かった。産業別で、情報サービス業従事者に確かに重視されているが、現職種別では、情報処理技術者で特に重視度が高いというわけではない。(表47A・B・C参照)

⑦の「物流基地の整備・高度化」はそこそこ重視されてはいるが、あいまい度が高い。地域的には、防府ではっきり重視の方向に振れている他は、概ねあいまい度が勝っている。また、現業種別では関連する運輸・通信業と卸売業、その他サービス業従事者で重要度が高くでている。(表48A・B参照)

⑧の「観光・リゾート基盤の整備」は、総合的にはかなり重視されているが、「重要でない」とする声もかなりある。地域的には、下松で目立って重要度が高い。(表49参照)

⑨の「交通アクセス網の整備」は、はっきり重視されている。地域的にも下松を筆頭に、全県的に重要度が高い。現業種別では、特に対個人ないしその他サービス業、小売業従事者で重要度が高い。(表50A・B参照)

⑩の「スポーツ・レクリエーション施設の充実」もはっきり重要度が高い。性別では女、年齢的には若い者ほどそうだと言えそうである。地域的には下松・防府・光などで重要度が高い一方、徳山・小野田でややあいまいである。また世帯別では、既婚の三世帯世帯が特に重視している。(表51A・B・C・D参照)

⑪の「イベント・コンベンションの誘致」は、総合的にはかなり重要度が高い。が、地域的には徳山・岩国などではあいまい度も高い。(表52参照)

⑫の「医療施設の整備・充実」は、はっきり重視されている。地域的にはあいまい度の高い宇部・岩国を除き、「大変重要」と認識されている。(表53参照)

⑬の「伝統文化の保存・振興」はあまり重視されていず、かつ、あいまい度が非常に高い。地域的には重視に振れた山口と、それを否定する徳山を

対極に、概ねあいまい度が高い。(表54参照)

⑭の「生涯教育機関の振興」は、かなり重要度の高い項目に属するが、あいまい度が50%と最も高い。地域的には防府・小野田で重視の方向に振れているが、徳山・柳井では否定も目立つ。学歴別で大卒・大学院卒のあいまい度が高いのに対し、高卒、ないしはそれ以上に両者の中間学歴者が、重視の方向に振れている。(表55A・B参照)

⑮の「大学・専門教育機関の新設・拡充」はある程度重視されているが、「重要でない」とする者も多い。地域的には防府で重視に振れ、下関で逆に振れたのは、前者に大学がなく、後者には既に4つあるからであろうか。学歴別では、高卒の重視がやや目立つ。(表56A・B参照)

⑯の「子供の教育環境の改善」はかなり重要度が高いが、あいまい度も高い。地域的には宇部・防府などで重視に振れるのに対し、徳山・山口などであいまい度が高い。(表57参照)

⑰の「芸術・文化施設の充実」はそれなりに重視されているが、やはりあいまい度が高い。地域的には宇部で重視、柳井・小野田でその否定に振れた他は、あいまい度が高い。(表58参照)

⑱の「住宅・下水道等居住環境の改善」は、最も重要度の高かった項目である。あいまい度も最小だった。年齢的には歳が増すほど一層重視しているといえる。重視傾向は、全県的に万遍なく読み取れる。(表59A・B参照)

⑲の「福祉施設の充実」は大いに重視されているが、あいまい度がやや高かった。年齢的には、やはり歳が増すほど重視に振れているようである。地域的には柳井・下松であいまい度が高い他は、重要度が高い。また生涯定住志向の者が、他の者より重視していると読み取れる。(表60A・B・C参照)

⑳の「自然環境の保全」も大いに重要度が高いが、あいまい度もかなり高い。地域的には徳山・光・新南陽という周南であいまい度が高かった他は、おおむね重視の方向に振れている。また生涯定住志向者は重視に振れるが、

移住志向者や不明者はあいまい度が高まっている。(表61A・B参照)
 ②①の「国際交流の振興」はあいまい度が高く、かつ「重要である」と「重要でない」がまったく同数で、本論では、あまり重要でない部類に属する。地域的には、重視に振れた防府を例外としてあいまい度が高かったが、光・柳井・小野田・岩国では、重視しない声も目立つ。また、東京を筆頭に首都圏からのUターン者は、その他からのUターン者に比して重視している。(表62A・B参照)

②②の「若者の定住・産業後継者の育成」は、大変重要とされた。地域的にはあいまい度の高い岩国・新南陽を除き、概ねそうである。また、大阪からのUターン者が例外的にあいまい度が高いのに対し、東京・愛知からのそれは、重視に振れている。また現業種別では、製造業従事者に比し、情報サービス業など、サービス業従事者が重視の方向に振れている。(表63A・B・C参照)

②③の「自治体行政への住民参加の促進」は、かなり重要度が高いが、あいまい度も高い。地域的には、大きく重視に振れた防府を例外に、全域であいまい度が高い。(表64参照)

5-4 街づくりの参考事例

郷土の街づくりの参考事例を、市町村名を明示し、かつ、その意味合いを答えてもらった。回答数は43だが、ここでは具体的に挙げた自治体名と、参考になる視点を簡潔に記す。

(1) 参考になる街

神戸市	7名	北九州市	4名	横浜市	3名
福岡市	2名	広島市	2名	江戸川区	2名
ハウステンボス	1名	太宰府市	1名	春日市	1名
大分市	1名	湯布院町	1名	宇部市	1名
福山市	1名	御調町(広島県)	1名	出雲市	1名
大社町	1名	倉敷市	1名	松山市	1名

明石市	1名	伊丹市	1名	京都市	1名
浜松市	1名	平塚市	1名	東京都	1名
江東区	1名	松戸市	1名	市原市	1名
鹿島市	1名	野田市	1名	仙台市	1名

以上から、神戸、横浜など臨海・政令都市が目立つ。また近辺では、北九州市、福岡、広島など地方中枢都市が挙げられている。山口県にはない規模の大都市である。

(2) 参考になる視点

総合すると、自然環境と近代的都市づくりの「調和」、「臨海」「水際」空間環境の整備、「駅前」空間の整備、ショッピングとレジャー・レク・文化を融合させた市民「コミュニティ」づくりなどが要望されている。

5-5 自由意見欄

最後に、Uターンや郷土の街づくりに関わって自由に意見を記してもらったが、96件あった。これらを集約して、主な意見を掲げておく。

- (1) 企業誘致も含めて、求人企業と職場の確保・充実、また賃金など労働条件の引き上げを訴えたもの 31名
- (2) Uターン情報・窓口の充実、情報アクセスの利便性を求めたもの 16名
- (3) 鉄道、道路など交通アクセスの整備を訴えたもの 10名
- (4) 商業施設とレジャー・レク・イベントなどの集積を求めたもの 10名
- (5) Uターンするにあたっての住宅条件の充実を求めたもの 8名
- (6) 開発からの自然環境の保全を訴えたもの 4名

ここでは、郷土の街づくりの視点以上に、Uターン時の職場条件やUターン情報の充実が、切実に求められている。

表32A 郷土は「自然が豊かで美しい」か？(地域別)

	そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え ない	違 う	無 回 答	合 計
下 関 市	7	9	1	0	17
字 部 市	20	6	2	0	28
山 口 市	18	5	0	0	23
秋 田 市	0	1	0	0	1
徳 山 市	13	13	0	0	26
防 府 市	17	13	2	0	32
下 松 市	5	1	0	0	6
岩 手 市	3	5	0	0	8
小 野 田 市	4	5	0	0	9
光 市	6	1	0	0	7
長 門 市	1	0	0	0	1
柳 井 市	3	3	1	0	7
美 祿 市	2	1	0	0	3
新 南 陽 市	3	5	0	0	8
大 島 郡	1	0	0	0	1
玖 珂 郡	3	0	0	0	3
熊 毛 郡	11	1	0	0	12
熊 灘 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	1	0	0	0	1
吉 敷 郡	4	0	1	0	5
厚 狭 郡	5	2	0	0	7
豊 浦 郡	2	0	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	2	0	0	0	2
そ の 他	6	2	1	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	137	73	8	2	220

表32B 郷土は「自然が豊かで美しい」か？(年齢層別)

	そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え ない	違 う	無 回 答	合 計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	18	10	0	0	28
25～29歳	51	19	3	1	74
30～34歳	42	21	2	1	66
35～39歳	17	12	2	0	31
40～44歳	6	10	1	0	17
45歳～	3	1	0	0	4
空 白	0	0	0	0	0
合 計	137	73	8	2	220

表33 郷土は「暮らしやすい気候である」か？(地域別)

	そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え ない	違 う	無 回 答	合 計
下 関 市	11	6	0	0	17
字 部 市	17	11	0	0	28
山 口 市	14	7	2	0	23
秋 田 市	0	1	0	0	1
徳 山 市	17	7	2	0	26
防 府 市	19	11	1	1	32
下 松 市	4	2	0	0	6
岩 手 市	4	3	1	0	8
小 野 田 市	6	2	1	0	9
光 市	6	0	1	0	7
長 門 市	0	0	1	0	1
柳 井 市	5	2	0	0	7
美 祿 市	2	1	0	0	3
新 南 陽 市	5	2	1	0	8
大 島 郡	1	0	0	0	1
玖 珂 郡	2	1	0	0	3
熊 毛 郡	10	2	0	0	12
熊 灘 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	0	1	0	0	1
吉 敷 郡	4	1	0	0	5
厚 狭 郡	3	4	0	0	7
豊 浦 郡	1	1	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	0	2	0	0	2
そ の 他	5	4	0	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	136	71	10	3	220

表 34A 郷土は「素朴な土地柄である」か？(地域別)

	そう思う	どちらとも言えない	違 う	無 回 答	合 計
下 関 市	10	6	1	0	17
宇 部 市	12	14	2	0	28
山 口 市	16	5	2	0	23
萩 市	1	0	0	0	1
徳 山 市	14	10	2	0	26
防 府 市	16	11	4	1	32
下 松 市	4	1	1	0	6
岩 国 市	6	1	1	0	8
小 野 田 市	6	3	0	0	9
光 市	5	2	0	0	7
長 門 市	0	0	1	0	1
柳 井 市	6	1	0	0	7
美 祿 市	3	0	0	0	3
新 南 陽 市	6	2	0	0	8
大 島 郡	1	0	0	0	1
玖 珂 郡	1	2	0	0	3
熊 毛 郡	5	7	0	0	12
瀬 群 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	1	0	0	0	1
吉 敷 郡	4	1	0	0	5
厚 狭 郡	5	2	0	0	7
豊 浦 郡	0	2	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	2	0	0	0	2
そ の 他	6	3	0	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	130	73	14	3	220

表 34B 郷土は「素朴な土地柄である」か？(年齢層別)

	そう思う	どちらとも言えない	違 う	無 回 答	合 計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	18	9	0	1	28
25～29歳	43	27	3	1	74
30～34歳	39	20	6	1	66
35～39歳	19	8	4	0	31
40～44歳	8	8	1	0	17
45歳～	3	1	0	0	4
空 白	0	0	0	0	0
合 計	130	73	14	3	220

表 34C 郷土は「素朴な土地柄である」か？(性別)

	そう思う	どちらとも言えない	違 う	無 回 答	合 計
男(長男)	82	46	11	1	140
男(長男以外)	38	15	3	1	57
女(長女)	7	7	0	1	15
女(長女以外)	3	4	0	0	7
空 白	0	1	0	0	1
合 計	130	73	14	3	220

表 35A 郷土は「水や食べ物がおいしい」か？(地域別)

	そう思う	どちらとも言えない	違	う	無回答	合	計
下	11	6	0	0	0	17	17
字	14	14	0	0	0	28	28
山	10	12	1	0	0	23	23
秋	0	1	0	0	0	1	1
徳	11	13	2	0	0	26	26
防	18	14	0	0	0	32	32
下	5	1	0	0	0	6	6
岩	5	3	0	0	0	8	8
小	5	4	0	0	0	9	9
光	4	3	0	0	0	7	7
長	0	1	0	0	0	1	1
柳	4	2	1	0	0	7	7
美	2	1	0	0	0	3	3
新	4	4	0	0	0	8	8
大	1	0	0	0	0	1	1
玖	3	0	0	0	0	3	3
熊	7	5	0	0	0	12	12
都	0	0	0	0	0	0	0
佐	1	0	0	0	0	1	1
吉	3	1	1	0	0	5	5
厚	5	2	0	0	0	7	7
豊	1	1	0	0	0	2	2
美	0	0	0	0	0	0	0
大	0	0	0	0	0	0	0
阿	2	0	0	0	0	2	2
そ	5	3	1	2	11	11	11
無	0	0	0	0	0	0	0
回							
答							
合	121	91	6	2	220	220	220

表 35B 郷土は「水や食べ物がおいしい」か？(年齢層別)

	そう思う	どちらとも言えない	違	う	無回答	合	計
～19歳	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	11	15	2	0	0	28	28
25～29歳	45	25	3	1	1	74	74
30～34歳	36	28	1	1	66	66	
35～39歳	16	15	0	0	31	31	
40～44歳	10	7	0	0	17	17	
45歳～	3	1	0	0	4	4	
空	0	0	0	0	0	0	
白							
合	121	91	6	2	220	220	220

表 36 郷土は「歴史と伝統がある」か？(地域別)

	そう思う	どちらとも言えない	違	う	無回答	合	計
下	8	8	1	0	17	17	17
字	10	15	3	0	28	28	28
山	18	5	0	0	23	23	23
秋	1	0	0	0	1	1	1
徳	6	18	2	0	26	26	26
防	19	11	1	0	32	32	32
下	2	4	0	1	6	6	6
岩	5	3	0	0	8	8	8
小	3	6	0	0	9	9	9
光	4	3	0	0	7	7	7
長	0	1	0	0	1	1	1
柳	3	3	1	0	7	7	7
美	2	1	0	0	3	3	3
新	2	4	2	0	8	8	8
大	1	0	0	0	1	1	1
玖	0	3	0	0	3	3	3
熊	8	3	1	0	12	12	12
都	0	0	0	0	0	0	0
佐	0	1	0	0	1	1	1
吉	2	3	0	0	5	5	5
厚	3	3	1	0	7	7	7
豊	0	1	1	0	2	2	2
美	0	0	0	0	0	0	0
大	0	0	0	0	0	0	0
阿	1	1	0	0	2	2	2
そ	3	5	1	2	11	11	11
無	0	0	0	0	0	0	0
回							
答							
合	101	102	14	3	220	220	220

表37 郷土は「よそ者でもとけ込める」か？(地域別)

	そう思う	どちらとも言えない	違う	無回答	合計
下関市	5	7	5	0	17
宇部市	9	18	1	0	28
山口市	7	11	5	0	23
萩市	0	0	1	0	1
徳山市	3	16	7	0	26
防府市	8	17	6	1	32
下松市	2	4	0	0	6
下岩国市	2	4	2	0	8
小野田市	3	4	2	0	9
小光市	1	5	1	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	2	5	0	0	7
美祢市	1	2	0	0	3
新南陽市	0	8	0	0	8
大島郡	1	0	0	0	1
大玖波郡	0	3	0	0	3
熊毛郡	5	6	1	0	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	1	5	1	0	7
豊浦郡	0	1	1	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	2	4	3	2	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	55	124	38	3	220

表38A 郷土は「活気がある」か？(地域別)

	そう思う	どちらとも言えない	違う	無回答	合計
下関市	0	2	15	0	17
宇部市	1	12	15	0	28
山口市	0	5	18	0	23
萩市	0	0	1	0	1
徳山市	1	15	10	0	26
防府市	1	12	19	0	32
下松市	0	3	3	0	6
下岩国市	1	3	4	0	8
小野田市	1	4	4	0	9
小光市	0	3	4	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	0	5	2	0	7
美祢市	0	3	0	0	3
新南陽市	0	5	3	0	8
大島郡	1	0	0	0	1
大玖波郡	0	1	2	0	3
熊毛郡	1	6	5	0	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	1	1	3	0	5
厚狭郡	0	1	6	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	0	5	4	2	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	8	88	122	2	220

表38B 郷土は「活気がある」か？(性別)

	そう思う	どちらとも言えない	違う	無回答	合計
男(長男)	2	61	76	1	140
男(長男以外)	5	21	30	1	57
女(長女)	1	6	8	0	15
女(長女以外)	0	0	7	0	7
空白	0	0	1	0	1
合計	8	88	122	2	220

表 39A 郷土は「革新的である」か？(地域別)

	そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	違 う	無 回 答	合 計
下 関 市	0	2	15	0	17
字 部 市	1	11	16	0	28
山 口 市	1	6	16	0	23
秋 市	0	0	1	0	1
徳 山 市	0	14	12	0	26
防 府 市	2	11	18	1	32
下 松 市	0	1	5	0	6
岩 国 市	0	4	4	0	8
小 野 田 市	0	4	5	0	9
光 市	0	2	5	0	7
長 門 市	0	0	1	0	1
柳 井 市	1	4	2	0	7
美 祿 市	0	3	0	0	3
新 南 陽 市	0	3	5	0	8
大 島 郡	0	1	0	0	1
玖 珂 郡	0	2	1	0	3
熊 毛 郡	0	5	7	0	12
都 濃 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	0	0	1	0	1
吉 敷 郡	1	1	3	0	5
厚 狭 郡	1	2	4	0	7
豊 浦 郡	0	0	2	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	0	2	0	0	2
そ の 他	0	3	6	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	7	81	129	3	220

表 39B 郷土は「革新的である」か？(年齢層別)

	そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	違 う	無 回 答	合 計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	2	12	13	1	28
25～29歳	3	29	41	1	74
30～34歳	1	25	39	1	66
35～39歳	1	9	21	0	31
40～44歳	0	4	13	0	17
45歳～	0	2	2	0	4
空 白	0	0	0	0	0
合 計	7	81	129	3	220

表 40 郷土は「近代的である」か？(地域別)

	そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	違 う	無 回 答	合 計
下 関 市	0	3	14	0	17
字 部 市	0	13	15	0	28
山 口 市	1	6	16	0	23
秋 市	0	0	1	0	1
徳 山 市	1	10	15	0	26
防 府 市	0	12	19	1	32
下 松 市	0	1	5	0	6
岩 国 市	0	5	3	0	8
小 野 田 市	0	3	6	0	9
光 市	0	1	6	0	7
長 門 市	0	1	0	0	1
柳 井 市	0	2	5	0	7
美 祿 市	0	1	2	0	3
新 南 陽 市	0	2	6	0	8
大 島 郡	0	1	0	0	1
玖 珂 郡	0	1	2	0	3
熊 毛 郡	0	5	7	0	12
都 濃 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	0	0	1	0	1
吉 敷 郡	0	1	4	0	5
厚 狭 郡	1	1	5	0	7
豊 浦 郡	0	0	2	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	0	0	2	0	2
そ の 他	0	3	6	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	3	72	142	3	220

表 41A 山口県が「住み良さ」全国8位という経企庁調査結果をどう思うか？(年令層別)

	～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳～	無回答	合計
思ったより低い	0	2	5	2	0	0	2	0	11
順当である	0	10	29	22	14	5	1	0	81
どちらともいえない	0	3	9	5	3	4	1	0	25
思ったより高い	0	12	28	33	13	7	0	0	93
わからない	0	0	2	1	1	1	0	0	5
無回答	0	1	1	3	0	0	0	0	5
合計	0	28	74	66	31	17	4	0	220

表 41B 山口県が「住み良さ」全国8位という経企庁調査結果をどう思うか？

(Uターン総合判別別)

	良かった	まあ良かった	どちらともいえない	あまり良かった	悪かった	無回答	合計
思ったより低い	4	3	1	2	1	0	11
順当である	41	22	12	5	1	0	81
どちらともいえない	3	6	9	5	2	0	25
思ったより高い	20	38	21	7	5	2	93
わからない	1	2	2	0	0	0	5
無回答	1	1	2	0	0	1	5
合計	70	72	47	19	9	3	220

表 41C 山口県が「住み良さ」全国8位という経企庁調査結果をどう思うか？(定住志向別)

	生涯定住するつもり	身内(親など)の事情がなくなれば移住するつもり	子供が独立すれば老後はついていく	ある時期には移住するだろう	わからない	無回答	合計
思ったより低い	6	1	0	1	3	0	11
順当である	57	1	0	2	20	1	81
どちらともいえない	14	0	0	1	10	0	25
思ったより高い	46	2	1	6	37	1	93
わからない	1	0	0	0	4	0	5
無回答	2	0	0	0	0	3	5
合計	126	4	1	10	74	5	220

表 42A 「伝統的地域産業の振興」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	5	9	3	0	17
宇都部市	8	12	8	0	28
山口市	7	11	5	0	23
秋田市	0	1	0	0	1
徳山市	4	9	13	0	26
防府市	11	12	8	1	32
下松市	1	3	2	0	6
岩国市	1	5	1	1	8
小野田市	3	2	4	0	9
小光市	1	4	2	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	1	1	5	0	7
美祿市	2	1	0	0	3
新南陽市	2	1	3	2	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	2	7	2	1	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	0	5	0	0	5
厚狭郡	1	4	2	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	3	2	3	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	53	94	65	8	220

表 42B 「伝統的地場産業の振興」は重要か（職種別）

	機械技術	電気技術	化学技術	鉱工業技術	土木建築技術	情報処理技術	専門職	事務・管理	営業・販売	技能・生産	その他	無回答	合計
大変重要	4	3	4	0	2	12	2	11	7	4	3	1	53
かなり重要	8	9	1	1	4	8	11	20	16	9	6	1	94
重要でない	4	0	3	1	3	4	4	19	6	11	9	1	65
無回答	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	2	8
合計	17	13	8	2	9	24	17	53	29	24	19	5	220

表 43A 「中小企業の振興」は重要か？（地域別）

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	9	7	1	0	17
宇都部市	13	14	1	0	28
山口市	9	13	1	0	23
萩市	0	1	0	0	1
徳山市	12	12	2	0	26
防府市	15	14	2	1	32
下松市	4	2	0	0	6
岩国市	3	3	1	1	8
小野田市	2	6	1	0	9
光市	1	6	0	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	2	4	1	0	7
美祿市	3	0	0	0	3
新南陽市	4	3	0	1	8
大玖波郡	0	0	0	1	1
玖波郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	7	4	0	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐敷郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	2	3	0	0	5
厚狭郡	3	4	0	0	7
豊浦郡	0	1	1	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	1	0	2
その他	3	4	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	96	103	13	8	220

表 43B 「中小企業の振興」は重要か？（直前勤務地別）

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
東京都	28	22	5	1	56
千葉県	3	3	0	0	6
埼玉県	1	1	0	0	2
神奈川県	8	11	1	0	20
大阪府	13	24	2	3	42
兵庫県	6	7	0	0	13
愛知県	4	5	0	1	10
広島県	13	7	2	1	23
福岡県	3	2	1	1	7
他	17	21	2	1	41
不明	0	0	0	0	0
合計	96	103	13	8	220

表 44A 「第一次産業の振興」は重要か？（年齢層別）

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	8	11	7	2	28
25～29歳	21	39	11	3	74
30～34歳	13	31	17	5	66
35～39歳	8	14	9	0	31
40～44歳	2	9	0	0	17
45歳～	2	2	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0
合計	54	106	50	10	220

表 44B 「第一次産業の振興」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	6	9	2	0	17
宇部市	8	10	10	0	28
山口市	9	10	4	0	23
萩市	0	0	1	0	1
徳山市	7	9	10	0	26
防府市	9	18	4	1	32
下松市	1	3	2	0	6
岩国市	0	2	4	2	8
小野田市	2	5	2	0	9
小光市	0	6	0	1	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	1	4	2	0	7
美祇市	2	0	1	0	3
新南陽市	1	4	1	2	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	1	1	1	0	3
熊毛郡	2	7	2	1	12
瀬戸郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	0	5	0	0	5
厚狭郡	3	4	0	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祇郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	2	5	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	54	106	50	10	220

表 45A 「製造業の企業誘致」は重要か？(年齢層別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	10	10	6	2	28
25～29歳	35	21	15	3	74
30～34歳	20	30	13	3	66
35～39歳	8	13	10	0	31
40～44歳	3	9	5	0	17
45歳～	4	0	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0
合計	80	83	49	8	220

表 45B 「製造業の企業誘致」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	9	6	2	0	17
宇部市	11	12	5	0	28
山口市	10	9	4	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	9	10	7	0	26
防府市	15	10	6	1	32
下松市	1	3	2	0	6
岩国市	0	1	6	1	8
小野田市	3	4	2	0	9
小光市	2	5	0	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	2	2	3	0	7
美祇市	2	1	0	0	3
新南陽市	1	3	2	2	8
大島郡	0	1	0	0	1
玖珂郡	1	1	1	0	3
熊毛郡	3	4	4	1	12
瀬戸郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	2	3	0	0	5
厚狭郡	3	2	2	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美祇郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	1	0	2
その他	3	3	2	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	80	83	49	8	220

表 45C 「製造業の企業誘致」は重要か？(直前勤務地別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
東京都	22	20	14	0	56
千葉県	4	2	0	0	6
埼玉県	1	1	0	0	2
神奈川県	9	6	5	0	20
大阪府	9	20	10	3	42
兵庫県	4	5	4	0	13
愛知県	5	3	1	1	10
広島県	7	8	7	1	23
福岡県	2	2	2	1	7
その他	17	16	6	2	41
不明	0	0	0	0	0
合計	80	83	49	8	220

表 45D 「製造業の企業誘致」は重要か？(業種別)

	建設業	電気ガス水道業		卸売業		飲食業		情報サービス業		対個人サービス業		官公庁		無回答	合計	
		製造業	運輸通信業	小売業	金融保険不動産業	対事業所サービス業	その他サービス業	その他								
大変重要	4	36	1	3	4	5	0	3	7	1	4	5	1	6	0	80
かなり重要	12	31	3	3	2	1	0	1	6	5	0	6	1	11	1	83
重要でない	4	15	1	1	2	1	0	0	5	2	0	4	3	10	1	49
無回答	0	2	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	8
合計	20	84	5	8	9	8	0	4	18	9	4	15	6	28	2	220

表 45E 「製造業の企業誘致」は重要か？(職種別)

	機械技術	電気技術	化学技術	鉱工業技術	土木建築技術	情報処理技術	専門職	事務・管理	営業・販売	技能・生産	その他	無回答	合計
大変重要	8	1	1	1	1	9	5	20	11	13	9	1	80
かなり重要	6	6	3	0	5	8	7	19	11	9	6	1	83
重要でない	2	3	4	1	3	7	5	11	7	2	3	1	49
無回答	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	2	8
合計	17	13	8	2	9	24	17	53	29	24	19	5	220

表 46A 「商業施設の誘致・整備」は重要か？(性別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
男(長男)	84	42	9	5	140
男(長男以外)	38	14	4	1	57
女(長女)	9	5	0	1	15
女(長女以外)	5	1	0	1	7
空白	1	0	0	0	1
合計	137	62	13	8	220

表 46B 「商業施設の誘致・整備」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	12	5	0	0	17
宇都部市	18	9	1	0	28
山口市	17	6	0	0	23
萩市	0	1	0	0	1
徳山市	19	6	1	0	26
防府市	25	6	1	0	32
下松市	4	1	1	0	6
岩国市	0	7	0	1	8
小野田市	4	2	3	0	9
小光市	6	0	1	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	4	3	0	0	7
美祿市	2	1	0	0	3
新南陽市	4	2	0	2	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	5	4	2	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	4	1	0	0	5
厚狭郡	2	4	1	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	0	1	0	2
その他	6	1	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	137	62	13	8	220

表46C 「商業施設の誘致・整備」は重要か？（業種別）

	建設業	製造業	電気ガス水道業		卸売業		飲食業	情報サービス業			対個人サービス業		官公庁	無回答	合計	
			運輸通信業	小売業	金融保険不動産業	対事業所サービス業		対個人サービス業	その他サービス業							
大変重要	15	50	4	4	8	5	0	3	15	3	3	10	1	16	0	137
かなり重要	3	27	1	3	0	1	0	1	2	4	1	4	3	11	1	62
重要でない	1	5	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	13
無回答	1	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	8
合計	20	84	5	8	9	8	0	4	18	9	4	15	6	28	2	220

表46D 「商業施設の誘致・整備」は重要か？（職種別）

	機械技術	電気技術	化学技術	鉱工業技術	土木建築技術	情報処理技術	専門職	事務・管理	営業・販売	技能・生産	その他	無回答	合計
かなり重要	5	6	3	0	3	5	7	15	7	6	4	1	62
重要でない	2	2	0	1	1	1	0	4	2	0	0	0	13
無回答	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	8
合計	17	13	8	2	9	24	17	53	29	24	19	5	220

表47A 「情報サービス産業の誘致」は重要か？（地域別）

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	8	9	0	0	17
宇都宮市	16	11	0	1	28
山口市	12	10	0	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	19	5	1	1	26
防府市	22	7	2	1	32
下松市	3	2	1	0	6
岩国市	2	4	1	1	8
小野田市	1	4	4	0	9
光岡市	5	2	0	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	2	4	1	0	7
美祿市	1	1	1	1	3
新南陽市	4	2	0	2	8
大分県	0	0	0	1	1
大分県	3	0	0	0	3
熊本県	5	3	3	1	12
熊本県	0	0	0	0	0
熊本県	0	1	0	0	1
熊本県	0	0	0	0	0
熊本県	3	2	0	0	5
熊本県	6	1	0	0	7
熊本県	1	0	1	0	2
大津市	0	0	0	0	0
阿武町	0	0	0	0	0
その他	1	1	0	0	2
無回答	6	1	1	3	11
合計	0	0	0	0	0
	121	71	17	11	220

表47B 「情報サービス産業の誘致」は重要か？（業種別）

	建設業	製造業	電気ガス水道業		卸売業		飲食業	情報サービス業			対個人サービス業		官公庁	無回答	合計	
			運輸通信業	小売業	金融保険不動産業	対事業所サービス業		対個人サービス業	その他サービス業							
大変重要	14	43	2	5	6	6	0	1	13	4	2	10	0	13	2	121
かなり重要	4	31	1	2	1	1	0	3	4	2	2	4	4	12	0	71
重要でない	1	8	1	0	1	0	0	0	1	2	0	1	1	1	0	17
無回答	1	2	1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	2	0	11
合計	20	84	5	8	9	8	0	4	18	9	4	15	6	28	2	220

表47C 「情報サービス産業の誘致」は重要か？（職種別）

	機械技術	電気技術	化学技術	鉱工業技術	土木建築技術	情報処理技術	専門職	事務・管理	営業・販売	技能・生産	その他	無回答	合計
かなり重要	7	6	4	0	5	7	9	17	5	7	3	1	71
重要でない	1	1	0	1	0	3	1	4	2	2	2	0	17
無回答	1	2	0	0	0	0	1	3	1	0	1	2	11
合計	17	13	8	2	9	24	17	53	29	24	19	5	220

表 48A 「物流基地の整備・高度化」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	7	7	3	0	17
宇部市	10	15	2	1	28
山口市	6	14	3	0	23
秋田市	0	0	1	0	1
徳山市	11	14	0	1	26
防府市	18	10	3	1	32
下松市	1	4	1	0	6
岩国市	2	3	2	1	8
小野田市	1	4	4	0	9
小光市	2	5	0	0	7
長門市	0	1	0	0	1
柳井市	3	3	1	0	7
美祢市	1	1	1	0	3
新南陽市	0	6	0	2	8
大玖波郡	0	0	0	1	1
玖波郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	3	5	3	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	0	3	2	0	5
厚狭郡	3	3	1	0	7
豊浦郡	0	1	1	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	6	1	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	75	105	29	11	220

表 48B 「物流基地の整備・高度化」は重要か？(業種別)

	建設業	製造業	電気ガス水道業	卸売業	飲食業	情報サービス業	対個人サービス業	官公庁	その他	無回答	合計			
大変重要	8	20	1	5	2	0	1	7	3	2	9	1	75	
かなり重要	10	47	3	2	2	5	0	3	10	4	2	4	2	105
重要でない	1	15	1	0	1	0	0	1	1	1	0	2	2	29
無回答	1	2	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	2	11
合計	20	84	5	8	9	8	0	4	18	9	4	15	6	220

表 49 「観光・リゾート基盤の整備」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	7	7	3	0	17
宇部市	11	11	4	2	28
山口市	10	7	6	0	23
秋田市	1	0	0	0	1
徳山市	11	11	3	1	26
防府市	12	10	9	1	32
下松市	5	0	1	0	6
岩国市	1	5	1	1	8
小野田市	3	2	4	0	9
小光市	4	1	2	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	4	2	1	0	7
美祢市	1	2	0	0	3
新南陽市	3	1	2	2	8
大玖波郡	0	0	0	1	1
玖波郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	6	2	3	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	3	0	2	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	0	1	1	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	1	0	0	2
その他	7	1	1	2	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	98	67	44	11	220

表50A 「交通アクセス網の整備」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	9	7	1	0	17
宇都宮市	18	9	0	1	28
山口市	15	8	0	0	23
秋田市	1	0	0	0	1
徳山市	15	9	1	1	26
徳防府市	21	10	1	0	32
下松市	6	0	0	0	6
岩国市	4	3	0	1	8
小野田市	5	3	1	0	9
光市	4	3	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	5	2	0	0	7
美祿市	1	1	1	0	3
新南陽市	4	3	1	0	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	9	3	0	0	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	1	1	0	5
厚狭郡	3	1	3	0	7
豊浦郡	0	2	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	2	0	0	0	2
その他	7	1	1	2	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	137	66	11	6	220

表50B 「交通アクセス網の整備は」重要か？(業種別)

	建設業		電気ガス水道業		卸売業		飲食業		情報サービス業		対個人サービス業		官公庁		無回答	合計
	製造業		運輸通信業	小売業	金融保険不動産業	対事業所サービス業	その他サービス業	その他								
大変重要	14	48	3	4	6	6	0	3	11	5	4	13	4	16	0	137
かなり重要	5	28	1	3	3	1	0	1	4	3	0	2	2	11	2	66
重要でない	0	8	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	11
無回答	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	6
合計	20	84	5	8	9	8	0	4	18	9	4	15	6	28	2	220

表51A 「スポーツ・リクリエーション施設の充実」は重要か？(性別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
男(長男)	79	45	10	6	140
男(長男以外)	32	18	4	3	57
女(長女)	10	4	0	1	15
女(長女以外)	6	1	0	0	7
空白	1	0	0	0	1
合計	128	68	14	10	220

表51B 「スポーツ・リクリエーション施設の充実」は重要か？(年齢層別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	19	8	0	1	28
25～29歳	47	19	3	5	74
30～34歳	36	20	6	4	66
35～39歳	16	11	4	0	31
40～44歳	9	7	1	0	17
45歳～	1	3	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0
合計	128	68	14	10	220

表 51C 「スポーツ・リクリエーション施設の充実」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下 関 市	8	8	1	0	17
字 部 市	15	10	1	2	28
山 口 市	15	8	0	0	23
秋 田 市	1	0	0	0	1
徳 山 市	10	12	3	1	26
防 府 市	24	6	2	0	32
下 松 市	6	0	0	0	6
国 府 市	4	3	0	1	8
小 野 田 市	3	5	1	0	9
小 光 市	6	1	0	0	7
長 門 市	1	0	0	0	1
柳 井 市	3	4	0	0	7
美 祿 市	2	0	1	0	3
新 南 陽 市	5	1	0	2	8
大 玖 島 郡	0	0	0	1	1
大 玖 島 郡	2	1	0	0	3
熊 毛 郡	6	4	1	1	12
熊 毛 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	1	0	0	0	1
吉 敷 郡	4	0	1	0	5
厚 狭 郡	4	0	3	0	7
豊 浦 郡	0	2	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	1	1	0	0	2
そ の 他	7	2	0	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	128	68	14	10	220

表 51D 「スポーツ・リクリエーション施設の充実」は重要か？(世帯別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
独 身(単身)	19	14	1	5	39
独身(親などと同居)	39	21	5	3	68
既婚(配偶者及び子供)	41	26	8	2	77
既婚(配偶・子供・自分の親)	15	4	0	0	19
既婚(配偶者・子供・配偶者の親)	7	0	0	0	7
その他	6	3	0	0	9
無回答	1	0	0	0	1
合 計	128	68	14	10	220

表 52 「イベント・コンベンションの誘致」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下 関 市	7	8	2	0	17
字 部 市	14	9	3	2	28
山 口 市	9	8	6	0	23
秋 田 市	0	1	0	0	1
徳 山 市	6	15	4	1	26
防 府 市	15	10	7	0	32
下 松 市	3	2	1	0	6
国 府 市	1	4	2	1	8
小 野 田 市	4	3	2	0	9
小 光 市	5	2	0	0	7
長 門 市	1	0	0	0	1
柳 井 市	3	1	3	0	7
美 祿 市	1	1	1	0	3
新 南 陽 市	3	3	0	2	8
大 玖 島 郡	0	0	0	1	1
大 玖 島 郡	2	1	0	0	3
熊 毛 郡	5	3	3	1	12
熊 毛 郡	0	0	0	0	0
佐 波 郡	1	0	0	0	1
吉 敷 郡	2	2	1	0	5
厚 狭 郡	5	0	2	0	7
豊 浦 郡	0	2	0	0	2
美 祿 郡	0	0	0	0	0
大 津 郡	0	0	0	0	0
阿 武 郡	0	2	0	0	2
そ の 他	8	1	0	2	11
無 回 答	0	0	0	0	0
合 計	95	78	37	10	220

表53 「医療施設の整備・充実」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	10	6	1	0	17
宇部市	11	13	3	1	28
山口市	13	6	4	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	13	9	3	1	26
防府市	17	11	3	1	32
下松市	6	0	0	0	6
岩国市	3	4	1	0	8
小野田市	7	2	0	0	9
光市	7	0	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	4	3	0	0	7
美祿市	3	0	0	0	3
新南陽市	4	4	0	0	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	9	3	0	0	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	5	2	0	0	7
豊浦郡	0	2	0	0	2
美祿津郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	1	0	0	2
その他	5	2	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	127	70	16	7	220

表54 「伝統文化の保存・振興」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	2	13	2	0	17
宇部市	5	17	4	2	28
山口市	11	10	2	0	23
萩市	0	0	1	0	1
徳山市	5	9	11	1	26
防府市	10	16	5	1	32
下松市	2	4	0	0	6
岩国市	2	5	1	0	8
小野田市	4	2	3	0	9
光市	0	5	2	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	2	3	2	0	7
美祿市	1	1	1	0	3
新南陽市	0	4	2	2	8
大島郡	1	0	0	0	1
玖珂郡	0	3	0	0	3
熊毛郡	3	7	1	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	1	4	0	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祿津郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	5	1	2	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	60	108	42	10	220

表 55A 「生涯教育機関の振興」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	4	12	1	0	17
宇部市	12	12	2	2	28
山口市	9	14	0	0	23
萩市	0	1	0	0	1
徳山市	7	12	6	1	26
防府市	17	12	3	0	32
下松市	2	4	0	0	6
岩国市	1	6	0	1	8
小野田市	5	3	1	0	9
光市	2	4	1	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	1	3	3	0	7
美祿市	1	1	1	0	3
新南陽市	3	4	0	1	8
大島郡	1	0	0	0	1
玖珂郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	2	8	1	1	12
熊波郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	2	3	0	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	0	1	1	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	3	4	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	79	110	22	9	220

表 55B 「生涯教育機関の振興」は重要か？(学歴別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
中学校卒	0	1	0	0	1
高校卒	25	29	8	4	66
高専卒	3	2	1	1	7
専門・各種学校	11	10	1	0	22
短大卒	5	4	3	2	14
大学卒	34	58	9	2	103
その他	1	1	0	0	2
大学院卒	0	5	0	0	5
無回答	0	0	0	0	0
合計	79	110	22	9	220

表56A 「大学・専門教育機関の新設、拡充」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	5	5	7	0	17
宇部市	10	14	2	2	28
山口市	10	8	5	0	23
秋田市	1	0	0	0	1
徳山市	11	9	5	1	26
防府市	19	4	9	0	32
下松市	1	4	1	0	6
岩国市	1	3	3	1	8
小野田市	3	1	5	0	9
小光市	2	4	1	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	2	3	2	0	7
美祢市	2	0	1	0	3
新南陽市	3	4	0	1	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	2	5	4	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	5	1	1	0	7
豊浦郡	1	0	1	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	1	1	0	2
その他	2	4	2	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	86	74	50	10	220

表56B 「大学・専門教育機関の新設、拡充」は重要か？(学歴別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
中学校卒	0	1	0	0	1
高校卒	30	16	18	4	66
高専卒	0	4	2	1	7
専門・各種学校	8	7	7	0	22
短大卒	4	3	4	3	14
大学卒	41	40	20	2	103
その他	1	0	1	0	2
大学院卒	2	3	0	0	5
無回答	0	0	0	0	0
合計	86	74	50	10	220

表57 「子供の教育環境の改善」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	7	9	1	0	17
宇部市	15	10	1	2	28
山口市	8	12	3	0	23
秋田市	0	1	0	0	1
徳山市	6	13	6	1	26
防府市	17	12	2	1	32
下松市	3	3	0	0	6
岩国市	5	3	0	0	8
小野田市	4	2	3	0	9
小光市	2	4	1	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	2	5	0	0	7
美祢市	3	0	0	0	3
新南陽市	2	5	0	1	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	2	1	0	0	3
熊毛郡	3	5	3	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	1	4	0	0	5
厚狭郡	4	3	0	0	7
豊浦郡	0	2	0	0	2
美祢郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	5	3	0	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	91	99	20	10	220

表58 「芸術・文化施設の充実」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	4	12	1	0	17
宇部市	13	12	1	2	28
山口市	9	13	1	0	23
秋田市	1	0	0	0	1
徳山市	9	10	6	1	26
防府市	10	15	6	1	32
下松市	2	4	0	0	6
岩国市	3	5	0	0	8
小野田市	3	1	4	1	9
小光市	3	3	1	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	1	2	4	0	7
美祿市	1	2	0	0	3
新南陽市	3	3	0	2	8
大玖波郡	0	0	0	1	1
玖波郡	0	3	0	0	3
熊毛郡	3	5	3	1	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	3	4	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	76	101	31	12	220

表59A 「住宅・下水道等居住環境の改善」は重要か？(年齢層別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	16	8	2	2	28
25～29歳	45	24	1	4	74
30～34歳	42	18	2	4	66
35～39歳	23	6	2	0	31
40～44歳	14	3	0	0	17
45歳～	4	0	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0
合計	144	59	7	10	220

表59B 「住宅・下水道等居住環境の改善」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	10	7	0	0	17
宇部市	19	7	0	2	28
山口市	17	6	0	0	23
秋田市	0	1	0	0	1
徳山市	14	10	1	1	26
防府市	23	7	2	0	32
下松市	4	1	1	0	6
岩国市	5	2	0	1	8
小野田市	5	3	1	0	9
小光市	6	1	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	5	1	1	0	7
美祿市	3	0	0	0	3
新南陽市	3	3	0	2	8
大玖波郡	1	0	0	0	1
玖波郡	2	1	0	0	3
熊毛郡	10	1	0	1	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	5	1	1	0	7
豊浦郡	0	2	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	7	1	0	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	144	59	7	10	220

表 60A 「福祉施設の充実」は重要か？(年齢層別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
～19歳	0	0	0	0	0
20～24歳	11	12	2	3	28
25～29歳	38	31	2	3	74
30～34歳	31	27	4	4	66
35～39歳	21	8	1	1	31
40～44歳	11	5	1	0	17
45歳～	3	1	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0
合計	115	84	10	11	220

表 60B 「福祉施設の充実」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	12	5	0	0	17
宇部市	18	9	0	1	28
山口市	12	11	0	0	23
萩市	0	1	0	0	1
徳山市	11	10	4	1	26
防府市	20	9	2	1	32
下松市	1	4	1	0	6
岩国市	4	2	1	1	8
小野田市	5	1	2	1	9
光市	5	2	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	0	7	0	0	7
美祿市	2	1	0	0	3
新南陽市	5	2	0	1	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	6	5	0	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	0	1	0	0	1
吉敷郡	2	3	0	0	5
厚狭郡	4	3	0	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	5	3	0	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	115	84	10	11	220

表 60C 「福祉施設の充実」は重要か？(定住志向別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
生涯定住するつもり	74	45	4	3	126
身内の事情がなくなれば、圏外に移住する	2	1	1	0	4
子供が独り立ちすれば、老後はついていくつもり	1	0	0	0	1
ある時期には移住するだろう	5	3	2	0	10
わからない	32	33	3	6	74
無回答	1	2	0	2	5
合計	115	84	10	11	220

表61A 「自然環境の保全」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	11	6	0	0	17
宇都部市	13	13	0	2	28
山口市	13	9	1	0	23
秋田市	0	1	0	0	1
徳山市	7	15	3	1	25
防府市	17	13	1	1	32
下松市	4	2	0	0	6
岩国市	3	3	1	1	8
小野田市	7	2	0	0	9
光市	3	4	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	4	3	0	0	7
美祿市	2	0	1	0	3
新南陽市	3	4	0	1	8
大島郡	1	0	0	0	1
玖珂郡	2	1	0	0	3
熊毛郡	6	5	0	1	12
熊灘郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	0	2	0	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	0	2	0	0	2
その他	6	2	0	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	111	91	8	10	220

表61B 「自然環境の保全」は重要か？(定住志向別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
生涯定住するつもり	71	49	3	3	126
身内の事情がなくなれば、圏外に移住する	2	0	2	0	4
子供が独立すれば、老後についていくつもり	0	1	0	0	1
ある時期には移住するだろう	4	6	0	0	10
わからない	33	33	3	5	74
無回答	1	2	0	2	5
合計	111	91	8	10	220

表62A 「国際交流の振興」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	6	9	2	0	17
宇都部市	8	16	2	2	28
山口市	6	11	6	0	23
秋田市	1	0	0	0	1
徳山市	5	14	6	1	26
防府市	13	10	8	1	32
下松市	1	2	3	0	6
岩国市	0	4	3	1	8
小野田市	0	5	4	0	9
光市	1	2	4	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	0	3	4	0	7
美祿市	0	1	2	0	3
新南陽市	3	1	2	0	8
大島郡	0	1	0	2	1
玖珂郡	1	2	0	0	3
熊毛郡	2	4	5	0	12
熊灘郡	0	0	0	1	0
佐波郡	0	0	1	0	1
吉敷郡	1	3	1	0	5
厚狭郡	4	1	2	0	7
豊浦郡	0	0	2	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	1	0	0	2
その他	4	3	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	58	93	58	11	220

表 62B 「国際交流の振興」は重要か？(直前勤務地別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
東京都	19	26	11	0	56
千葉県	3	2	1	0	6
埼玉県	0	2	0	0	2
神奈川県	7	9	4	0	20
大阪府	6	14	18	4	42
兵庫県	3	8	2	0	13
愛知県	1	3	5	1	10
広島県	4	10	6	3	23
福岡県	2	2	2	1	7
その他	13	17	9	2	41
不明	0	0	0	0	0
合計	58	93	58	11	220

表 63A 「若者の定住、産業後継者の育成」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	13	4	0	0	17
宇都宮市	17	8	1	2	28
山口市	18	5	0	0	23
秋田市	1	0	0	0	1
徳山市	13	10	2	1	26
防府市	23	9	0	0	32
下松市	4	2	0	0	6
岩国市	1	6	0	1	8
小野田市	6	2	1	0	9
光市	4	3	0	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	4	3	0	0	7
美弥市	1	2	0	0	3
新南陽市	3	5	0	0	8
大島郡	1	0	0	0	1
玖珂郡	3	0	0	0	3
熊毛郡	9	3	0	0	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	1	1	0	0	2
美弥郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	2	0	0	0	2
その他	6	2	0	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	139	69	5	7	220

表 63B 「若者の定住、産業後継者の育成」は重要か？(直前勤務地別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
東京都	39	16	1	0	56
千葉県	6	0	0	0	6
埼玉県	1	1	0	0	2
神奈川県	13	7	0	0	20
大阪府	19	19	1	3	42
兵庫県	10	3	0	0	13
愛知県	8	1	0	1	10
広島県	14	4	3	2	23
福岡県	4	2	0	1	7
その他	25	16	0	0	41
不明	0	0	0	0	0
合計	139	69	5	7	220

表 63C 「若者の定住、産業後継者の育成」は重要か？(業種別)

	建設業	電気ガス水道業			卸売業		飲食業		情報サービス業		対個人サービス業		官公庁		無回答	合計
		製造業	運輸通信業	小売業	金融保険	不動産業	対事業所サービス業	その他サービス業	その他							
大変重要	15	49	2	6	3	5	0	4	15	6	2	11	5	15	1	139
かなり重要	5	32	2	1	4	2	0	0	2	2	2	4	1	11	1	69
重要でない	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
無回答	0	2	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	7
合計	20	84	5	8	9	8	0	4	18	9	4	15	6	28	2	220

表 64 「自治体行政への住民参加の促進」は重要か？(地域別)

	大変重要	かなり重要	重要でない	無回答	合計
下関市	4	10	3	0	17
宇部市	11	11	3	3	28
山口市	8	13	2	0	23
萩市	1	0	0	0	1
徳山市	5	14	6	1	26
防府市	17	10	4	1	32
下松市	1	4	1	0	6
岩国市	1	6	0	1	8
小野田市	4	2	3	0	9
光市	2	4	1	0	7
長門市	1	0	0	0	1
柳井市	0	5	2	0	7
美祿市	1	1	1	0	3
新南陽市	2	4	0	2	8
大島郡	0	0	0	1	1
玖珂郡	2	1	0	0	3
熊毛郡	3	7	1	1	12
都濃郡	0	0	0	0	0
佐波郡	1	0	0	0	1
吉敷郡	3	2	0	0	5
厚狭郡	4	2	1	0	7
豊浦郡	0	1	1	0	2
美祿郡	0	0	0	0	0
大津郡	0	0	0	0	0
阿武郡	1	1	0	0	2
その他	2	5	1	3	11
無回答	0	0	0	0	0
合計	74	103	30	13	220

まとめ

「はじめに」で断ったいきさつの中で、この〔資料〕はまとめられているが、最後に暫定的結論を示しておく。

(1) ここでいう「Uターン者」とは、労働省のUターン事業の網のもとで、最近数年の間に、主に首都圏や関西の大都市から郷里の山口県に回帰し、雇用労働に携わる「中途Uターン者」である。したがって、さっそく親の事業や農業を引き継ぐというような自営層ではなく、また学卒後すぐ回帰した、「新卒Uターン者」でもない。

日本の企業の終身雇用・年功を軸とした雇用管理の伝統、また労働市場における求人側の状況を反映して、歳が増すほどUターン就職は不利である。この調査でも高年はおらず、20～34歳が圧倒的であった。また、Uターン問題はさしあたり、女の問題でもなかった。つまり、Uターン者の標準は、30歳前後の男、それも長男に求められる。

この調査対象としての属性は、後述のUターンに関わる事実と意識から、街づくりへの関心まで尾をひく。とはいえ、学卒後何年間に渡って都会で社会人として就職・生活した経験は、郷里でのそれと比較・秤量する複眼的思考を養ったはずがゆえに貴重であり、日本人の今後のライフスタイルのありかた、それに見合った地域づくりにとって、教訓となるう。

(2) Uターンを志向するに到った契機・理由は、個々人それぞれでニュアンスが異なり、また個人でも複合的なものであろう。「親」という誘因は、やはりキーワードから外せないとしても、結局自分と家族の生活のため、脱都会に踏みきったといえよう。既婚のUターン者が、Uターン後、概ねすぐには親と同居していない事実もその1つの証左といえなくはない。

前勤め先での勤務と自分の仕事希望の齟齬など、仕事要因を挙げた者も

いるが、それは決して多数派ではなかった。その場合も安易なドロップ・アウトと読むべきではない。

Uターンの決断は自分で下しているが、就職口情報源は概ね公共の機関であった。それは、この間の行政の努力を表すとともに、Uターン情報の狭さをも表現している。その狭さは、Uターン時に苦労した問題点として跳ね返ってくる。ここでは可能な限り賃金収入をダウンさせないで、自分の希望する勤め先を確保するかに問題点が収斂している。

(3) Uターン前後の仕事諸条件・生活諸条件を幾つかの事項で比較させると、賃金、労働時間・休日など仕事要因は概ね悪化傾向をみせ、逆に自然環境、住宅事情、家族の健康や団欒、余暇の活用や地域での交流等、家族生活要因では改善傾向が読み取れる。確かに、賃金ダウンが生計費の安さを補えず、特に親と別居の既婚世帯の家計は厳しくなったようだが、全体的には仕事条件で失い、節欲させられているものを、個人・家族生活条件の充実で十分補ってお釣りがでていると判定可能である。

その総合的証左として、Uターン就職は概ね肯定されており、生涯定住志向も高い。

(4) Uターン者とは、都会で就業生活経験を持つ者の内でも、それを精算するほどに郷里への愛着を持った人でもあろうか、郷里を高く評価している。山口が「住み良さ」全国8位だという政府調査を半数もの人が肯定している。その意味は、穏やかな気候や豊かで美しい自然から導かれる、素朴な土地柄と美味な食べ物への高い評価にある。他方、活気ある街に必要な近代性・革新性が大きく否定されたのは、一般的な常識の線に沿っていないよう。

(5) こうして、郷土への愛着と都会生活を経た複眼的思考を持ち、生涯定住しようとするUターン者の望む街づくりとは何か。雑多な23項目で考え

- ① 東京都 ② 千葉県 ③ 埼玉県 ④ 神奈川県 ⑤ 大阪府
⑥ 兵庫県 ⑦ 愛知県 ⑧ その他 (道府県)

(7) Uターン時点での年齢について

- ① ~19歳 ② 20~24歳 ③ 25~29歳 ④ 30~34歳
⑤ 35~39歳 ⑥ 40~44歳 ⑦ 45歳~

2. Uターンした経緯等についてお答えください。

(1) Uターンの就職情報ルートについて(最も役立ったものを一つ選んでください)。

- ① 親族からの情報 ② 友人・知人からの情報
③ 公共の職業紹介機関の情報 ④ 民間の職業紹介機関の情報
⑤ 新聞や雑誌の求人情報 ⑥ 山口県の企業からの直接の情報
⑦ 山口県人材Uターンセンター (Uターン相談コーナー)
⑧ その他 ()

(2) Uターンした理由について (主な理由3つを選んでください)。

- ① 自分又は配偶者の親の面倒をみる ② 家業を継ぐ
③ 配偶者が希望した ④ 親(配偶者の親も含む。)が希望した
⑤ 子供の教育・健康に良い ⑥ 結婚のため
⑦ 住宅事情が悪かった
⑧ 自然環境が悪かった ⑨ 生活環境が悪かった
⑩ 大都市での生活が嫌になった ⑪ 山口県で生活したい
⑫ 余暇・趣味が楽しめる ⑬ 以前の勤務先の仕事がいやだった
⑭ 以前の勤務先の間関係がいやだった ⑮ 転勤が多かった
⑯ 以前の勤務先の経営が悪化していた
⑰ 自分の能力・技術を生かせる可能性が高いと思った
⑱ 現在の勤め先からの誘いがあった
⑲ その他 ()

(3) Uターンを決定するに当たって最も積極的であった人について

- ① 自分自身 ② 配偶者 ③ 子供 ④ 親(配偶者の親も含む)
⑤ 兄弟 ⑥ その他 ()

(4) Uターンを決定するに当たって、苦労したり問題になったりしたことについて (1つ選んでください)。

- ① 勤め先の確保 ② 住居の確保 ③ 前の勤め先を円満退職すること
④ 家族の説得 ⑤ 子供の教育問題 ⑥ 収入のダウン
⑦ その他 ()

3. Uターンする直前のことについてお答えください。

(1) Uターン前の勤め先の業種について

- ① 建設業 ② 製造業 ③ 電気・ガス・水道業 ④ 運輸・通信業
 ⑤ 卸売業 ⑥ 小売業 ⑦ 飲食業 ⑧ 金融・保険・不動産業
 ⑨ 情報サービス業 ⑩ 対事業所サービス業 ⑪ 対個人サービス業
 ⑫ その他サービス業 ⑬ 官公庁 ⑭ その他()

(2) Uターン前の勤め先の職種について

- ① 機械技術 ② 電気技術 ③ 化学技術 ④ 鉱工業技術
 ⑤ 土木・建築技術 ⑥ 情報処理技術 ⑦ 専門職 ⑧ 事務・管理
 ⑨ 営業・販売 ⑩ 技能・生産工 ⑪ その他()

(3) Uターン前の勤め先の給料月額(手当を含む総額)について

- ① 15万円未満 ② 15～20万円未満 ③ 20～30万円未満
 ④ 30～40万円未満 ⑤ 40～50万円未満 ⑥ 50万円以上

(4) Uターン前の家賃, 住宅ローン等について

- ① 0円 ② 3万円未満 ③ 3～5万円未満
 ④ 5～10万円未満 ⑤ 10万円以上

(5) Uターン前の通勤時間について

- ① 30分未満 ② 30分～1時間未満 ③ 1時間～2時間未満
 ④ 2時間以上

4. 県内にUターンした後のことについてお答えください。

(1) 現在の勤め先の業種について

- ① 建設業 ② 製造業 ③ 電気・ガス・水道業 ④ 運輸・通信業
 ⑤ 卸売業 ⑥ 小売業 ⑦ 飲食業 ⑧ 金融・保険・不動産業
 ⑨ 情報サービス業 ⑩ 対事業所サービス業 ⑪ 対個人サービス業
 ⑫ その他サービス業 ⑬ 官公庁 ⑭ その他()

(2) 現在の勤め先の職種について

- ① 機械技術 ② 電気技術 ③ 化学技術 ④ 鉱工業技術
 ⑤ 土木・建築技術 ⑥ 情報処理技術 ⑦ 専門職 ⑧ 事務・管理
 ⑨ 営業・販売 ⑩ 技能・生産工 ⑪ その他()

(3) 現在の勤め先の給料月額(手当を含む総額)について

- ① 15万円未満 ② 15～20万円未満 ③ 20～30万円未満
 ④ 30～40万円未満 ⑤ 40～50万円未満 ⑥ 50万円以上

(4) 現在の家賃, 住宅ローン等について

- ④ある時期には移住するだろう ⑤わからない

6. あなたのUターン先のまちづくりについての御意見をお尋ねします。

(1) 現在を次の項目で評価してください。(各項目の該当欄に○をつけてください。)

項 目	① そう思う	② どちらとも いえない	③ 違 う
1 自然が豊かで美しい			
2 歴史と伝統がある			
3 革新的である			
4 素朴な土地柄である			
5 近代的である			
6 よそ者でもとけ込める			
7 活 気 が あ る			
8 水や食べ物がおいしい			
9 暮らしやすい気候である			

(2) 一昨年の経済企画庁調査「県別豊かさ指標」で山口県は、「住み良さ」全国8位にランクされました。この結果をあなたの印象と比較してください。

- ①思ったより低い ②順当である ③どちらともいえない
④思ったより高い ⑤わからない

(3) 今後、現在住んでおられる地域の発展のために何を重視したいですか
(各項目の該当欄のどれかに○をつけてください。)

項 目	①大変重要	②かなり重要	③重要でない
1 伝統的地場産業の振興			
2 中小企業の振興			
3 第1次産業の振興			
4 製造業の企業誘致			
5 商業施設の誘致・整備			
6 情報サービス産業の誘致			
7 物流基地の整備・高度化			
8 観光・リゾート基盤の整備			

9 交通アクセス網の整備			
10 スポーツ・レクリエーション施設の充実			
11 イベント・コンベンションの誘致			
12 医療施設の整備・充実			
13 伝統文化の保存・振興			
14 生涯教育機関の振興			
15 大学・専門教育機関の新設・拡充			
16 子供の教育環境の改善			
17 芸術・文化施設の充実			
18 住宅・下水道等居住環境の改善			
19 福祉施設の充実			
20 自然環境の保全			
21 国際交流の振興			
22 若者の定住・産業後継者の育成			
23 自治体行政への住民参加の促進			

- (4) あなたの知っている都市で、特色あるまちづくりの参考となる事例がありましたら教えてください。

_____ 都道府県の _____ 市町村の _____
 _____ のようなまちづくりが参考になる。

- (5) 最後に、UターンやUターン先のまちづくりに関して、自由な御意見をお聞かせください。

_____ _____ _____ _____

御協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて、アンケートを御返送ください。

〈参考文献目録〉

1. 日本労働研究機構「Uターン希望者と地元企業との適合状況」（調査研究報告書27）1992年6月
2. ㈱雇用情報センター「Uターン者の確保のための雇用管理事例調査研究報告書」（労働省委託事業）平成3年3月
3. ㈱九州経済調査協会「岐路に立つ地方拠点都市」（1993年度九州経済白書）
4. " 「九州新時代の胎動」（1992年度九州経済白書）
5. 武田圭太「都市の刺激と地方のゆとりの天秤」?
6. " 「就業条件をめぐるUターン希望者と地元企業との適合状況」日本労働研究機構紀要 No.4. 1992年
7. " 「沖縄県の地元企業によるUターン者採用の実情」" No.3. 1992年
8. " 「地方自治体による人材Uターン事業の現状」" No.2. 1991年
9. 日経事業出版社「日経 ゆうたーん」1993創刊号, 94春季号
10. 熊本県大阪事務所Uターンアドバイザー「Uターン制度9ヶ年のあゆみ」平成5年3月
11. " 「 " 7ヶ年のあゆみ」平成3年3月
12. ㈱大分県地方雇用振興協会「Uターン実態アンケート調査報告書」平成3年度
13. " 「 " 」平成2年度